

グローリー株式会社
2027年3月期 中間期 決算説明資料

2026年11月10日

［説明者］

・代表取締役社長　原田 明浩

・取締役　IR担当役員　藤田 知子

1

・決算ダイジェスト
・商談トピックス（海外・国内）
・2026中期経営計画の進捗

代表取締役社長　原田 明浩

2

・2027年3月期 中間期 実績
・2027年3月期予想の概要

取締役 IR担当　藤田 知子

[注意事項]

1. 本資料に記載されている、業績見通し等の将来に関する情報は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており その達成を当社として約束するものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。そのような要因としては、 主要市場の経済状況及び製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが含まれます。 また、本資料の将来の見通しに関する記述につきましては、法律上その手続きが必要となる場合を除き、事前予告なく変更することもありますので、 ご了承ください。
2. 当資料の構成比は、千万円以下を切り捨てた数値を基に算出しております。 なお、増減率につきましては、決算短信と統一しております。

1 決算ダイジェスト

代表取締役社長　原田 明浩

「2027年3月期　中間期 決算ダイジェスト」

説明者：代表取締役社長　原田 明浩

2027年3月期 中間期 決算ダイジェスト

2027年3月期 中間期 結果 ➡ **増収増益**

（億円）

	売上収益	前年同期比		営業利益	前年同期比		親会社の所有者に帰属する中間利益	前年同期比	
IFRS(国際会計基準)	1,742	+206	+13.4%	160	+60	+60.3%	106	+48	+83.5%

- **海外市場**は、製品・サービスの販売拡大、保守業務の改善、為替のプラス影響等により**大幅な増収増益**
- **国内市場**は、部品入手難による販売延伸があったものの、需要は好調を維持しており、売上収益は**増収**
  営業利益については、遊技市場の減収に加え、固定費増加等により**減益**

「2027年3月期　中間期　決算ダイジェスト」

2027年3月期 中間期は増収増益

- **売上収益　1,742億円**（前年同期比+13.4%）
- **営業利益　　160億円**（前年同期比＋60.3%）
- **親会社の所有者に帰属する中間利益　106億円**（前年同期比＋83.5% ）

海外は、製品サービスの販売拡大と保守業務、特に米州におきまして保守業務の改善、加えて為替のプラス影響等により、大幅な増収増益

国内は、部品入手難による販売延伸が一部であったが、需要は好調を維持しており増収
営業利益については、遊技市場の減収に加え、固定費増などにより減益

2027年3月期 中間期 決算ダイジェスト

2027年3月期 通期 予想 ➡ **増収増益 予想** （予想値は前回公表値から変更なし）

（億円）

	売上収益	前期比		営業利益	前期比		親会社の所有者に帰属する当期利益	前期比	
IFRS(国際会計基準)	3,600	+205	+6.0%	320	+23	+7.6%	200	+47	+30.0%

- **売上収益は**、新紙幣発行による特別需要前の水準(約2,200億円)を大きく上回り推移
- **海外市場は、**需要は旺盛であり、部品入手難により一部販売に影響あるものの、**8期連続で過去最高売上収益を更新見込み**
- **国内市場は、**金融、流通・交通については特別需要の反動減から売上回復を見込むも、営業利益については遊技市場の減収が大きく、加えて固定費増加等により**減益見通し**

「2027年3月期　通期予想　決算ダイジェスト」

2027年3月期 通期は増収増益を予想

- **売上収益　3,600億円**（前期比＋6.0%）
- **営業利益　320億円**（前期比＋7.6%）
- **当期利益　200億円**（前期比＋30.0% ）

2026年5月15日の公表値から変更なし

売上収益は、新紙幣発行による特別需要前の水準、約2,200億円を大きく上回り推移

海外市場は、需要は旺盛で部品入手難により一部販売延伸はあるが、8期連続で過去最高の売上収益を更新見込み

国内市場は、金融市場、流通・交通市場については、特需の反動減から売上は回復してきているが、営業利益については遊技市場の減収が大きく響き、固定費も一部増加を予想していることから減益の見通し

リスク ： 半導体関連 部品入手難による業績への影響

入手困難部品

プリント基板 、メモリ 、ストレージ 、CPU 等

影響①：部品価格上昇による 原価への影響

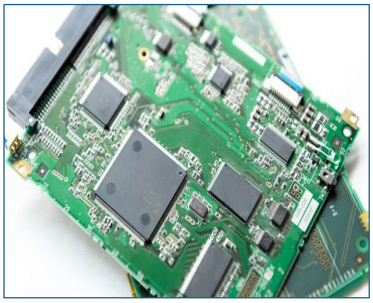
●**今年度の部品価格上昇の影響**（現時点予想）≒ **約15億円/年の原価アップ**見込みで
この原価アップ額については **業績予想に織り込み済み**

影響②：部品入手難による 売上収益／利益への影響

●**顧客の要求日程に対し、一部機種で生産遅延があり、販売／納入延伸が発生**
この影響額については、通期で**売上収益▲約49億円 、利益▲約24億円**の見込み
このマイナス影響については **業績予想に織り込み済み**

セグメント	売上収益	営業利益
海外市場	▲25億円	▲14億円
金融市場	▲20億円	▲８億円
流通･交通市場	▲４億円	▲２億円

なお、各種対応策により、
今期末には解消見込み



年間業績予想

･部品価格上昇による原価アップ(▲)
･部品入手難による販売影響(▲)
･為替レートの見直し(＋)
これらを織り込んだ上で、
通期の連結業績予想は据え置いております

「半導体関連 部品入手難による業績への影響」

世界的にAI需要が非常に拡大していることから、半導体関連の部品が入手しにくくなっている状況
半導体関連の部品入手難が継続し、業績への影響が見えてきた
入手難部品：プリント基板、メモリ、ストレージ、CPU等

①部品価格上昇によるコスト影響

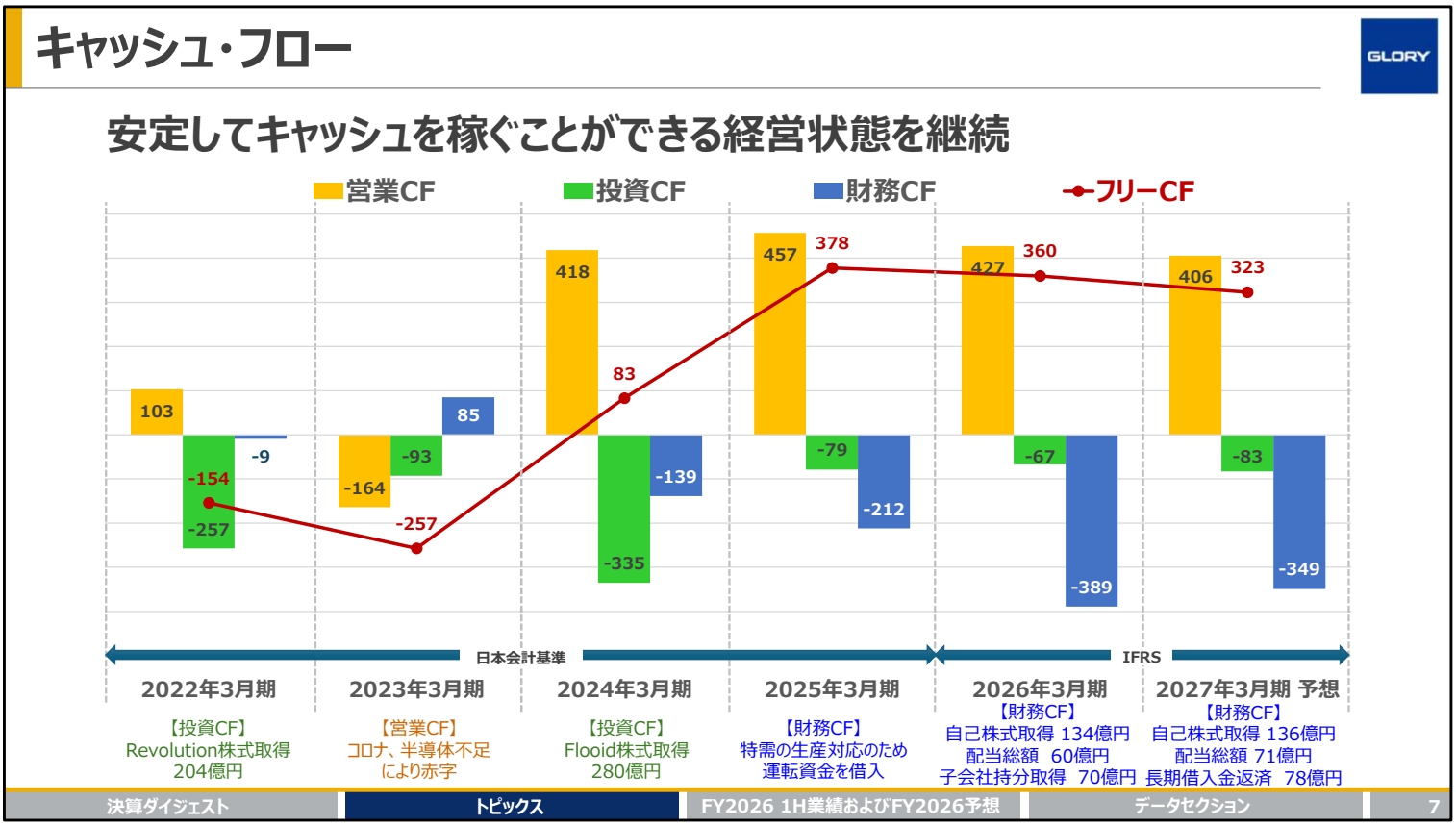
年間15億円の原価アップの見込み、業績予想に織り込み済み

②部品入手難による生産/販売への影響

お客様への納入日程に対しては、一部で生産遅延や販売納入遅延が発生
売上収益で約49億、利益で約24億のマイナス影響
セグメント別では表に記載の通り
いろんな対応策を打っており、今期末には解消見込み

年間業績予想

年間業績予想は、原価アップ、部品入手難による販売影響がマイナス要因。一方、為替レートの円安がプラス要因。これら全て織り込み、通期の連結業績予想は据え置き



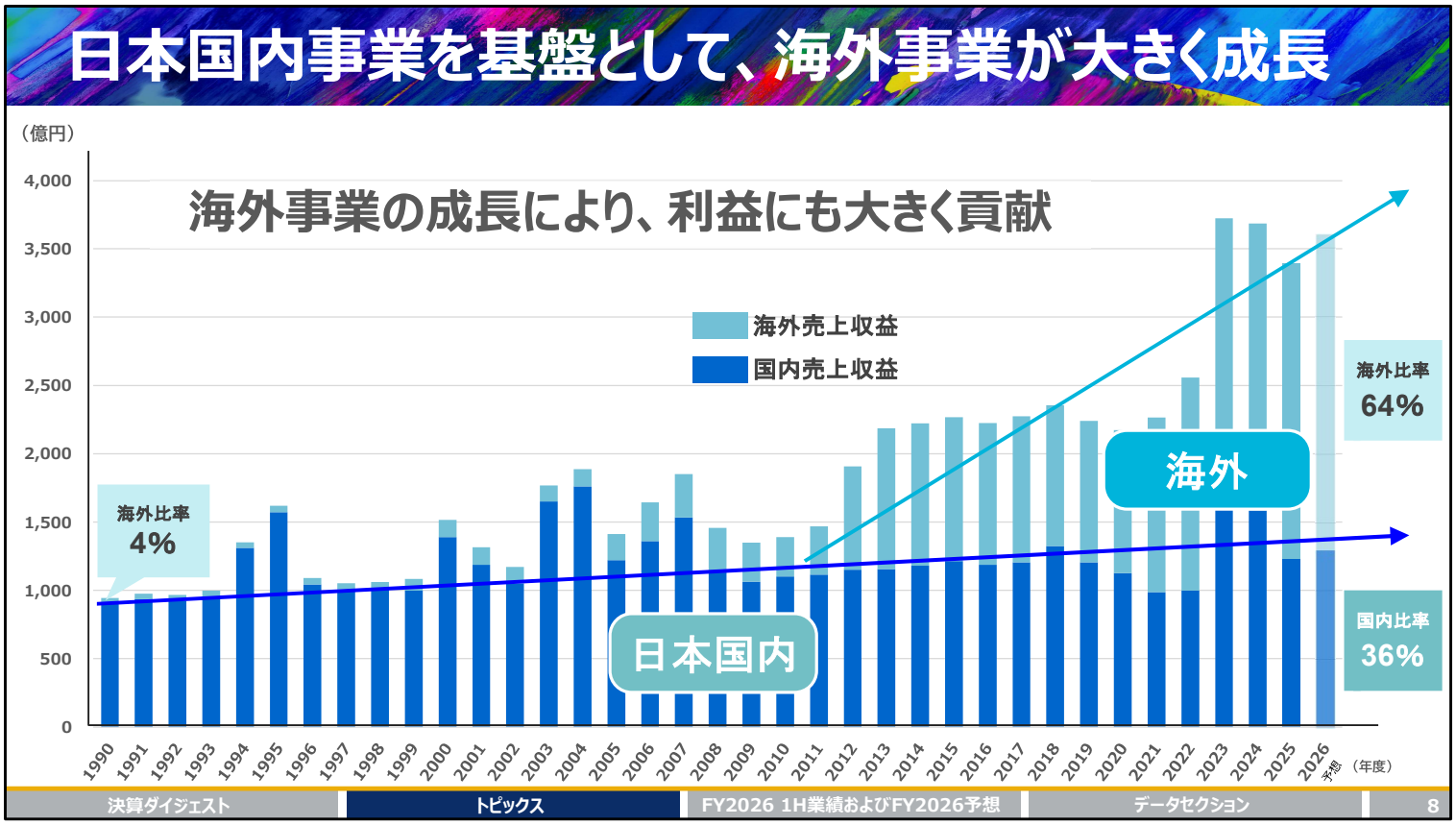
「キャッシュ・フロー」

過去6年間のキャッシュ・フローを表したグラフ

2022年3月期は、コロナや半導体不足の影響もあり、営業キャッシュがマイナスとなった

2024年3月期以降は新紙幣特需に加え、海外の事業成長もあり、営業キャッシュ・フローは毎年400億円を超える状況が続く

フリーキャッシュフローについては、300億円を超える状況が続き、安定的にキャッシュを生み出す経営状態を維持



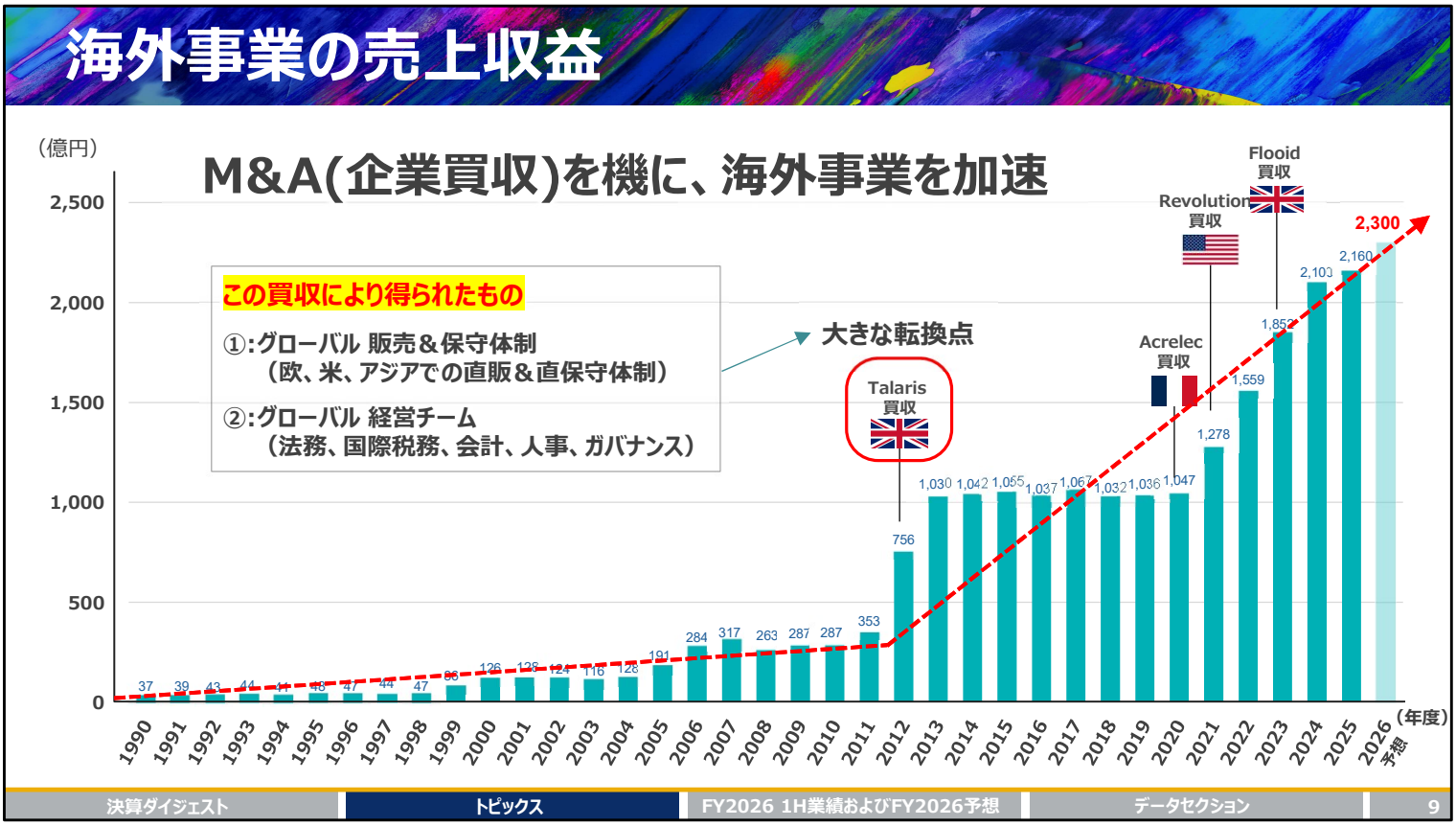
「海外事業の成長」

好業績の背景は、何と言っても海外事業の成長

棒グラフは1990年から現在までの売上収益の推移

下部が日本国内売上収益、上部の薄いブルーが海外売上収益

海外売上収益については、2012年ぐらいから急激に伸び、現在では全体の約64%を占める



「海外事業の成長」

海外が急激に伸びている背景として、2012年にTalarisというイギリスの会社を買収したことが非常に大きな起点になっている

この買収により得られたものが、以下の二つ

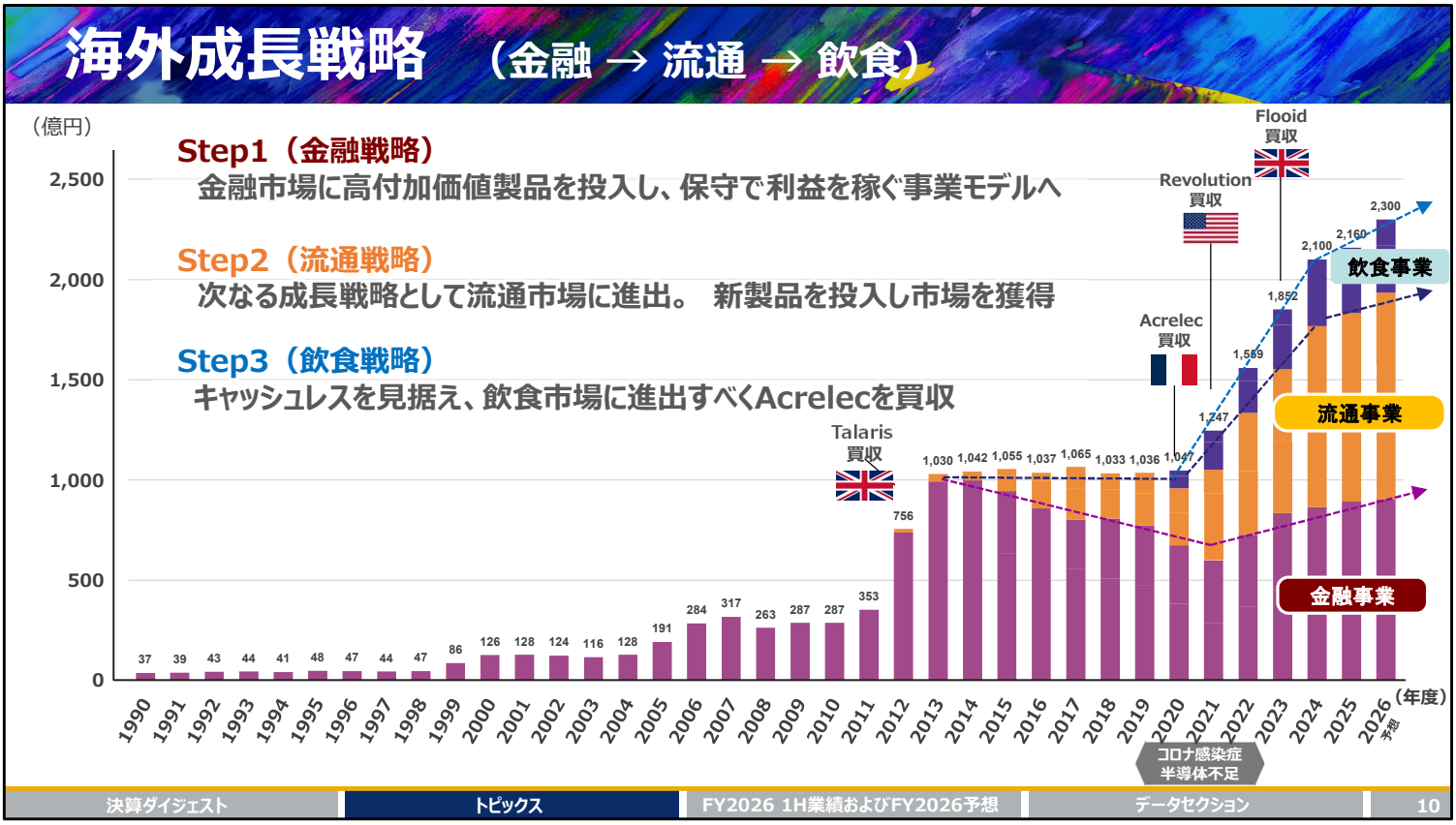
<u>グローバルレベルの販売網、保守網の獲得</u>

欧州、米州、アジアで直販・直メンテナンス体制を得ることにより、商流を手にした。売る力と、保守を手に入れた。ここに日本で開発した製品を乗せることにより大きく成長

<u>グローバルレベルで経営チームの獲得</u>

国際法務、国際税務、連結会計、人事、ガバナンス等を、日本の感覚ではなく、外国人の感覚で経営するチームを手に入れることができた。非常に強固な経営チームで事業運営

この二つにより、急激に海外が伸びてきた



「海外事業戦略」

具体的な戦略（三つのステップ）

Step1　金融戦略

Talarisのお客様は金融機関、グローリーのお客様も金融機関主体

金融市場に高付加価値の製品を投入することにより、保守で利益を稼ぐ事業モデルが確立できた

Step2　流通戦略

流通事業への進出に向けて新製品を開発し、グローバルの商流に乗せた

今では金融事業を上回るサイズになった

Step3　飲食戦略

キャッシュレスも見据えて、飲食市場へ進出すべく、キオスクやドライブスルーを展開するAcrelecを買収

現在、飲食市場向け事業を一生懸命伸ばそうとしているところ

現時点で海外売上収益は、約2,300億円まで伸びてきた

海外市場の商談トピックス

①金融　　セルフ型新製品
②リテール　　大口商談
③Acrelec社　ソリューション拡大

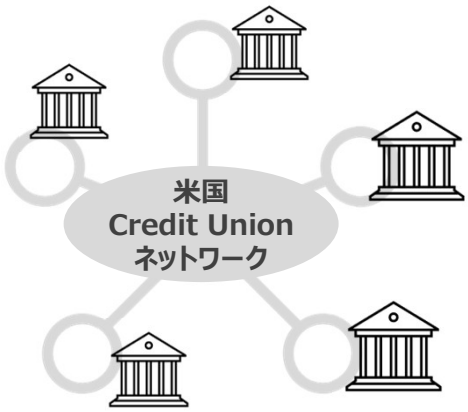
「海外市場の商談トピックス」

説明者：代表取締役社長　原田 明浩

①金融　顧客操作型のセルフ型新製品投入（米国）

・来店客による「セルフ操作の製品」を銀行のロビーに設置
・製品の現金処理操作は顧客自身が行い、銀行員はセールス活動にシフト





当製品を米国銀行協会のネットワークに接続できたことが最大のポイント

米国口座を持っている顧客は、ネットワークに加盟している他の金融機関においても、Teller Conciergeを通じて各種取引が可能になる

セルフ型新製品　<Teller Concierge>

- 来店客が操作するため、少人数で効率的な店舗運営を実現
- ATMでは対応できない大口の入出金、小切手の入金・現金化、両替、公共料金の支払い、送金などに対応

「海外市場の商談トピックス」

①金融　顧客操作型のセルフ型新製品投入（米国）

写真のように来店客によるセルフ操作の製品を銀行のロビーに設置し
お客様自身で現金操作、入出金、小切手入金、現金両替、公共料金の支払い等、ATMではできない処理が可能
一番のポイントは、画面の真ん中の絵にありますアメリカのCredit Unionネットワーク（日本でいう信金ネットワーク）との接続
どの金融機関でも、このネットワークに接続した製品であれば同じサービスが提供できる

今後この製品の拡大に期待

①金融　顧客操作型のセルフ型新製品投入（英国）

・Lloyds銀行(英国)では金融包摂を推進
・店舗削減の代用として、当製品を採用することで銀行業務を継続

※金融包摂
すべての人が適切な金融サービスを安心して利用できる状態



Lloyds Bankとは
- 展開地域　英国
- 創業　1765年
- 支店数　約600店
- 利用者数　約2,800万人

（出典：Lloyds Bank Annual Report 2025）

- リモートモニタリングシステム UBIQULAR™ を接続し、運用状況を監視
- OneBanx社（当社グループ会社）が提供する金融シェアードサービスプラットフォームを採用

「海外市場の商談トピックス」

①金融　顧客操作型のセルフ型新製品投入（英国）

イギリスのLloyds銀行
金融包摂を推進する金融機関
金融包摂とは、全ての人が適切な金融サービスを安心して利用できる状態

銀行支店の削減が進むなか、Lloyds Bankでは、支店に代わる金融サービス提供手段の一つとして当製品を採用し、銀行業務の継続を図っている

今後、欧米の金融機関で同様の対応が見込まれることから販売拡大に期待



「海外市場の商談トピックス」

②リテール　大口商談（米州）

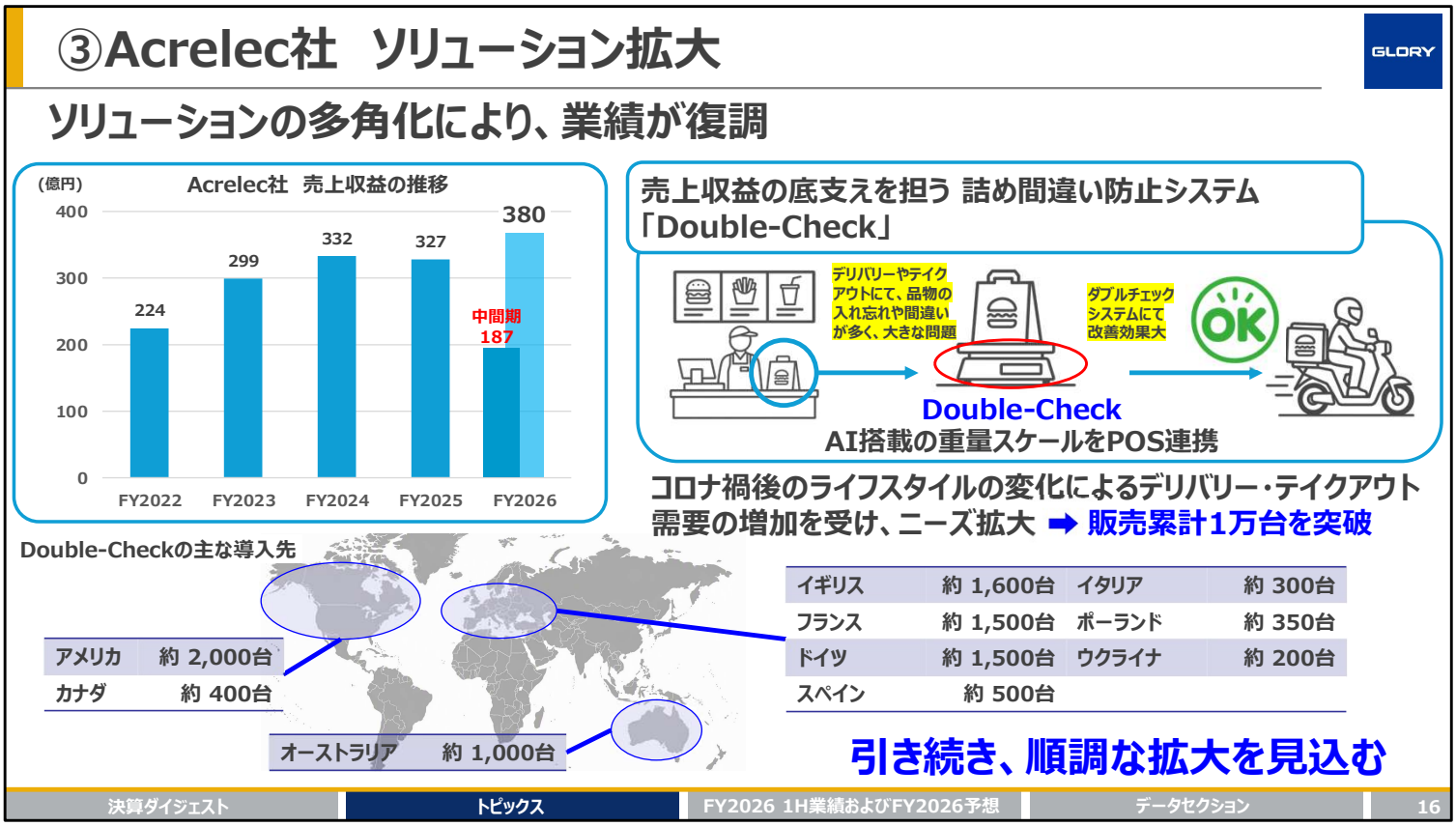
米州では大手ホームセンター、ハイパーマーケット、ディスカウントストア等で、リテール市場向け製品を受注



「海外市場の商談トピックス」

②リテール　大口商談（欧州）

欧州でも、ドイツをはじめ各国でバックオフィス向け売上金入金機、フロント向けのレジつり銭機の需要が旺盛で受注と納入が継続



「海外市場の商談トピックス」

③Acrelec社　ソリューション拡大

Acrelec社のソリューションの販売が拡大し、業績も回復基調
特にDouble-Checkの販売が好調

デリバリーやテイクアウトの利用客が増加するなか、店舗で袋の中に詰める品物の入れ忘れや入れ間違いも増加し、返品・返金処理などのクレーム対応が拡大
Double-Checkは、AI搭載の重量スケールとPOSを連携し、受注した品物の情報と重さをダブルチェックすることにより、間違いを防止する製品
市場で非常に評価され累計1万台を突破

今後も販売拡大が進み、業績の安定化、拡大化を見込む

国内の商談トピックス

①ファミリーマート向けレジつり銭機（リテール市場）
②警備輸送会社との協業ビジネス（リテール市場）
③非現金　れぽこれ！（リテール市場：SC）
④非現金　待たずにラク～だ（リテール市場：病院）
⑤非現金　TOFREE（飲食市場）

「国内の商談トピックス」

説明者：代表取締役社長　原田 明浩

①ファミリーマート向けレジつり銭機（リテール市場）





株式会社ファミリーマートは、2026年9月から全国約16,500店舗を対象に、当社のレジつり銭機を搭載した「新型POSレジ」の本格導入を開始。
2027年2月末までに全店での導入完了を目指す。

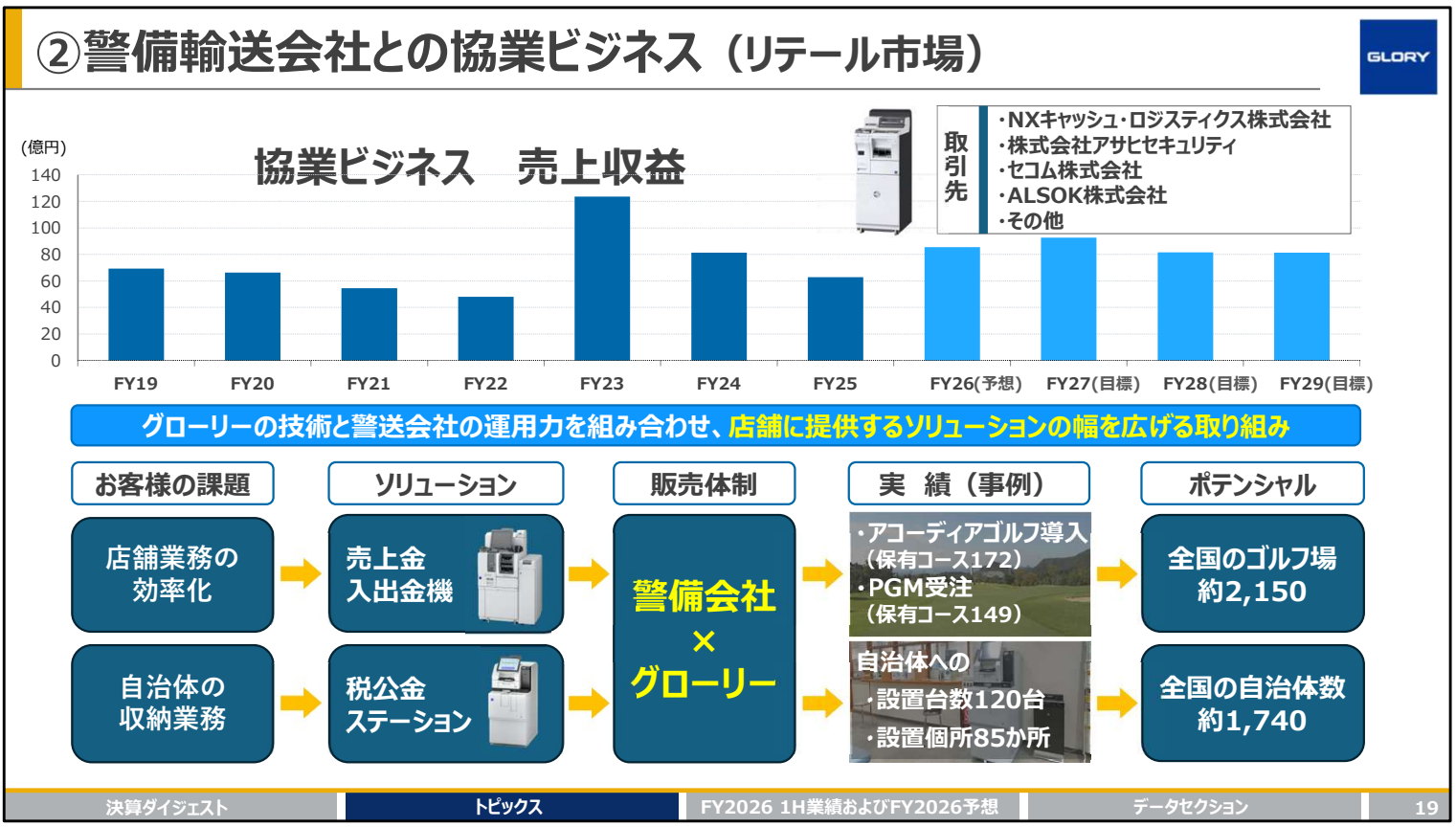
出典：株式会社ファミリーマート　ニュースリリース

「国内の商談トピックス」

①ファミリーマート向けレジつり銭機（リテール市場）

ファミリーマート様が、左の絵のようなレジつり銭機を含めた新型POSレジの投入を開始
2027年2月までに全店での導入を目指す

モードを切り替えることで、スタッフによる対面対応と、お客様自身によるセルフ会計の両方が可能



「国内の商談トピックス」

②警備輸送会社との協業ビジネス（リテール市場）

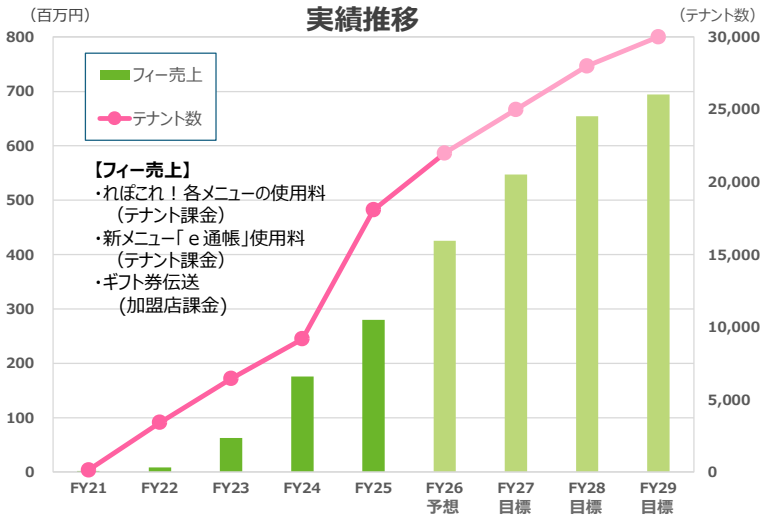
リテール市場で、警備輸送会社と協業ビジネスを展開
グラフは警備輸送市場向け売上収益の推移
グローリーの技術、製品と警備輸送会社の運用力を組み合わせて、店舗に提供するソリューションの幅を拡大
例えば、お客様の課題である、店舗業務の効率化や自治体の出納業務の効率化を実現
ソリューションとしてはグローリーの売上金入出金機や税公金ステーション
販売体制は私どもと警備輸送会社さんが共同で、納入先は例えばゴルフのアコーディア様やPGM様、
各自治体へ設置をしているという状況

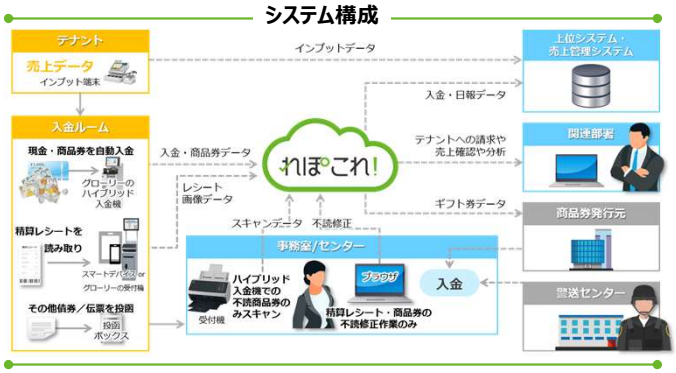
今後も協業による事業領域の拡大を目指す

③非現金　れぽこれ！（リテール市場）

れぽこれ！

ショッピングモール等、商業施設内の精算業務を自動化・効率化するシステム





【強み】
レシートも、商品券も、現金もトータルで実施できるのは当社のみ
市場での評価は高く、シェアは No.1

【市場動向】
スーパーや給食業界など、ショッピングセンター以外の業態への展開も模索

「国内の商談トピックス」

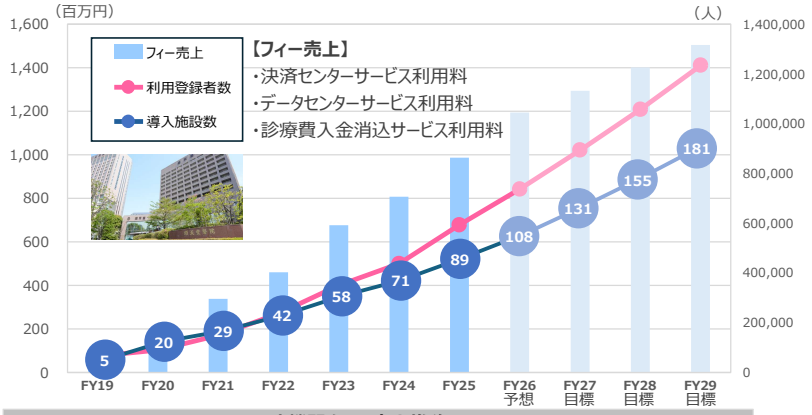
③非現金　れぽこれ！（リテール市場）

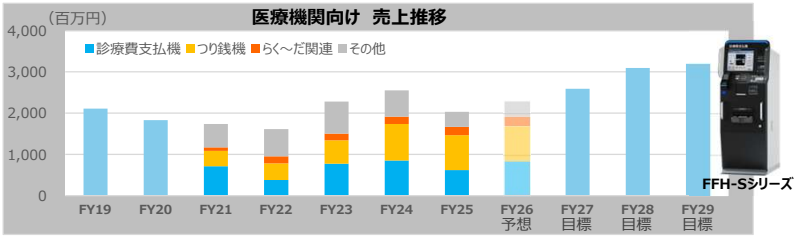
れぽこれ！は前期の第３四半期時に詳細を説明
ショッピングモール等で商業施設内の精算業務を自動化効率化するシステム
売上収益は、2025年まで順調に伸びており、この先もフィー売上が伸びることを見込む
フィー売上は限界利益率も高く、利益貢献も期待

④非現金　待たずにラク～だ（リテール市場：病院）

待たずにラク～だ

医療費後払いシステム：病院情報システムと連携して、患者の医療費を後日クレジット決済するサービス





利用概要

患者は事前に、専用Webサイトで「クレジットカード」を登録しておくことで、受診当日は「診察券のみ」で受診し、診療費は後日自動決済
ラク～だ利用における「領収書／診療明細書」は、後日再来院時に専用端末から患者自身で診察券を使用し受取り可能

強み

・病院情報システム連携による高い運用性
　医事会計システムとの連携により、入金消込自動化、領収書・明細書発行対応、修正会計対応、入院・高額医療対応など、病院実運用まで考慮した仕組み
・顧客基盤
　全国大規模病院の診療費支払機導入実績の顧客基盤
・利用率向上を前提とした設計
　「登録簡素化、代理登録対応、手持ちクレジットカード利用など」により、高齢者を含めた幅広い層の利用が可能

市場動向

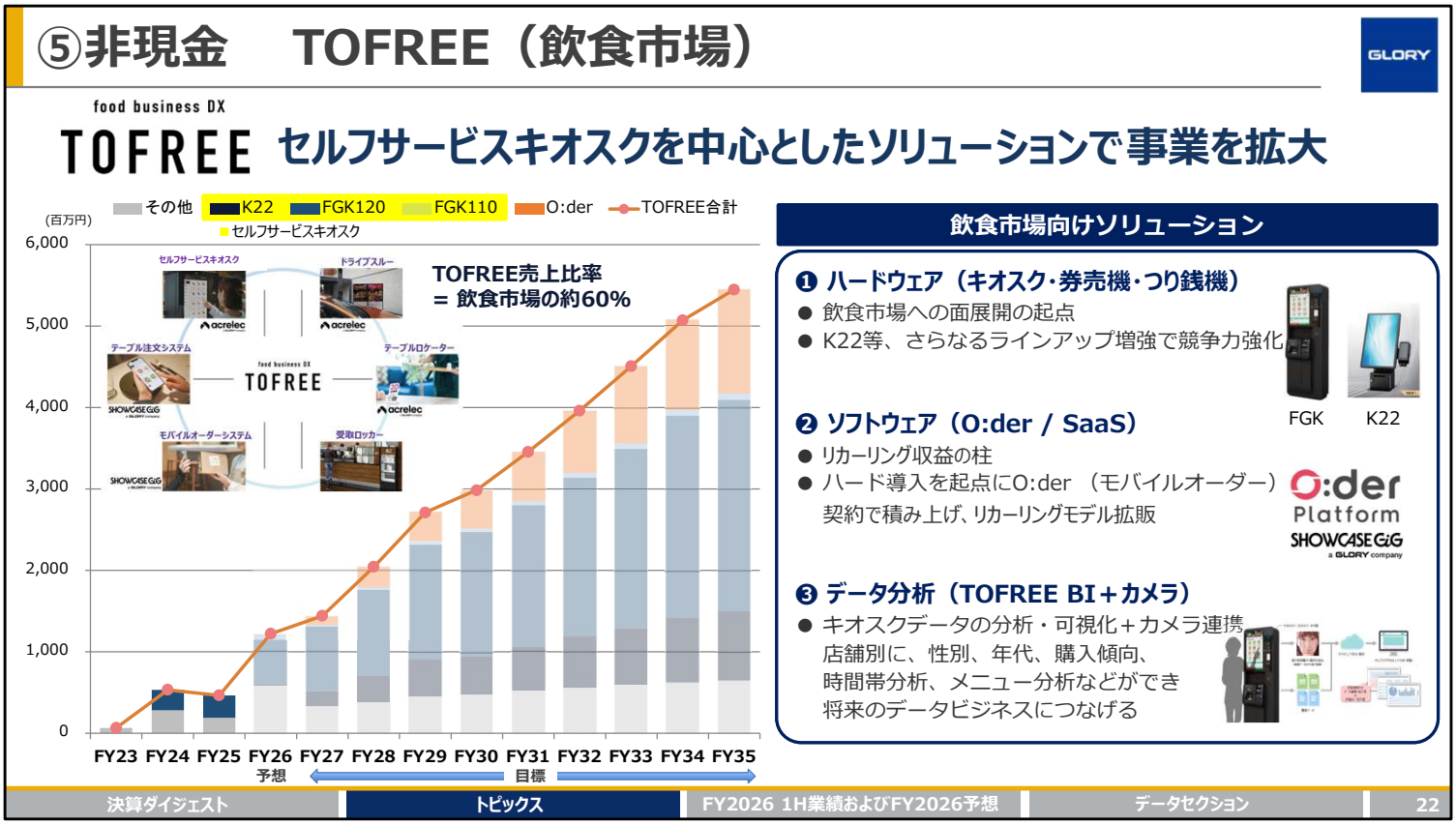
医療費後払い市場は拡大が続く一方で競争も激化。
グローリーは診療費支払機の顧客基盤と電子カルテベンダーとの連携力を活かし、後払いサービスを中核とした病院の外来業務全体を効率化する事業の拡大を目指す

「国内の商談トピックス」

④非現金　待たずにラク～だ（リテール市場）

リテール市場の中には、病院も含める
「待たずにラク～だ」は医療費の後払いシステム

病院での会計時に、会計処理を待たずに後日クレジットカードから自動的に決済引き落としをする仕組み
非常に好評いただきグラフのように手数料売上も伸びている



「国内の商談トピックス」

⑤非現金　TOFREE（飲食市場）

TOFREEは飲食市場向けの新しいソリューション

画面右のように、ハードウェアは、キオスク、券売機、つり銭機。ソフトウェアはスマホを使ったオーダーシステム。それとデータ分析の、３つの分野のソリューションで構成
店舗のDX化による売上アップや効率化に貢献

③非現金　TOFREE（飲食市場）

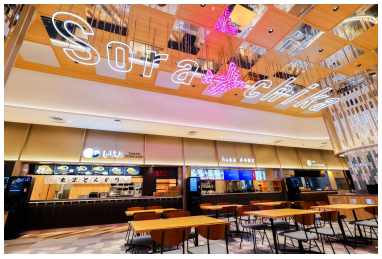
food business DX

TOFREE 導入事例





株式会社たねや・株式会社クラブハリエ　ラコリーナ近江八幡様
FGKシリーズを導入





羽田空港第1ターミナル新フードコート「Sora chika」様
オープンに伴い、DX化を支援（FGKシリーズ等を導入）





つじ田　様
FGKシリーズを導入　３台、３店舗





HUB（羽田空港第2ターミナル店）様
テーブルロケーターを導入

決算ダイジェスト | トピックス | FY2026 1H業績およびFY2026予想 | データセクション | 23

「国内の商談トピックス」

⑤非現金　TOFREE（飲食市場）

TOFREEの導入事例

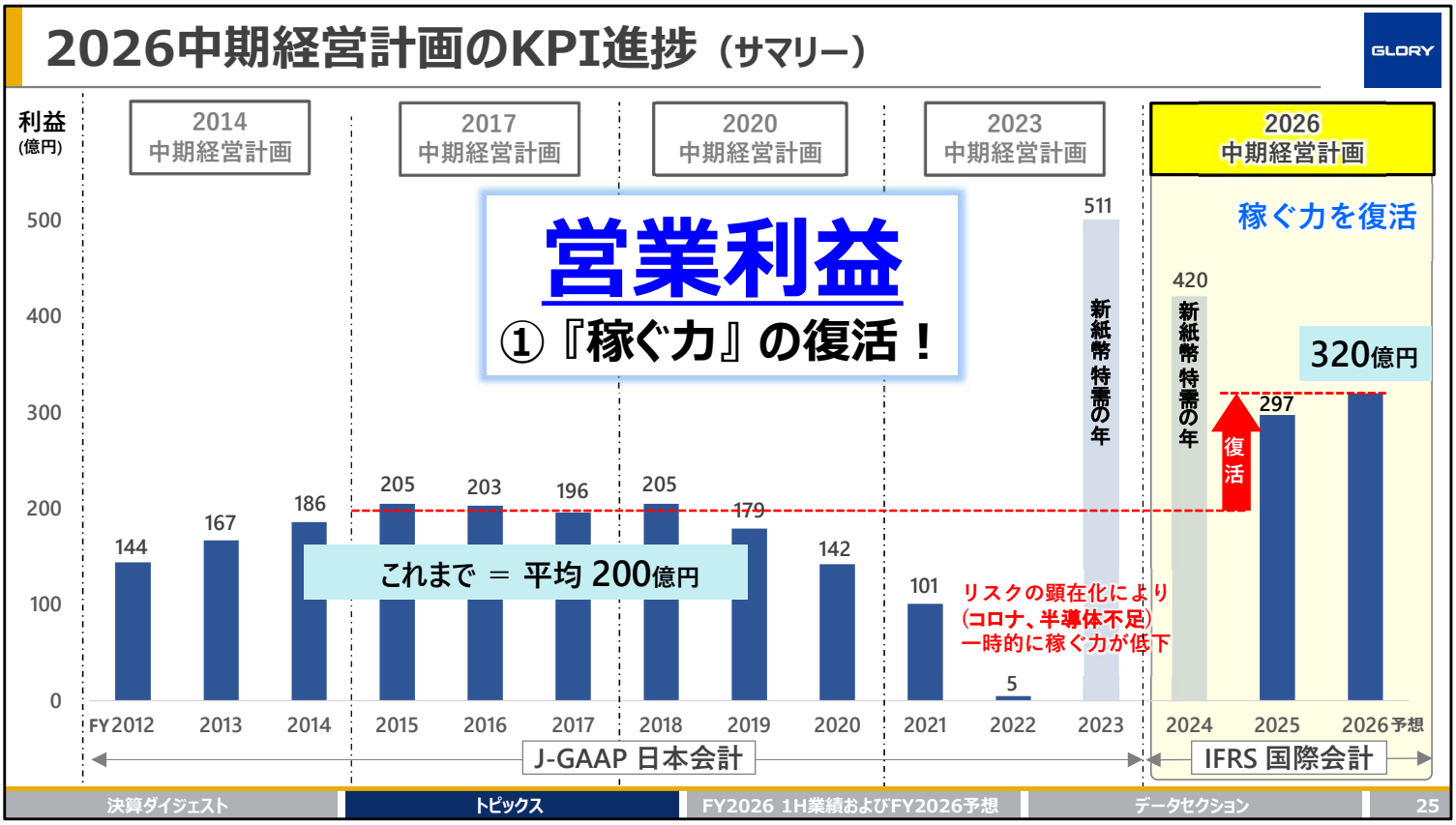
2026中期経営計画のKPI進捗

サマリー

- ROEの向上
- ROICの向上
- ROAの向上
- 営業利益（稼ぐ力）の向上
- 純利益の向上
- 事業成長（売上収益）

「2026中期経営計画のKPI進捗」

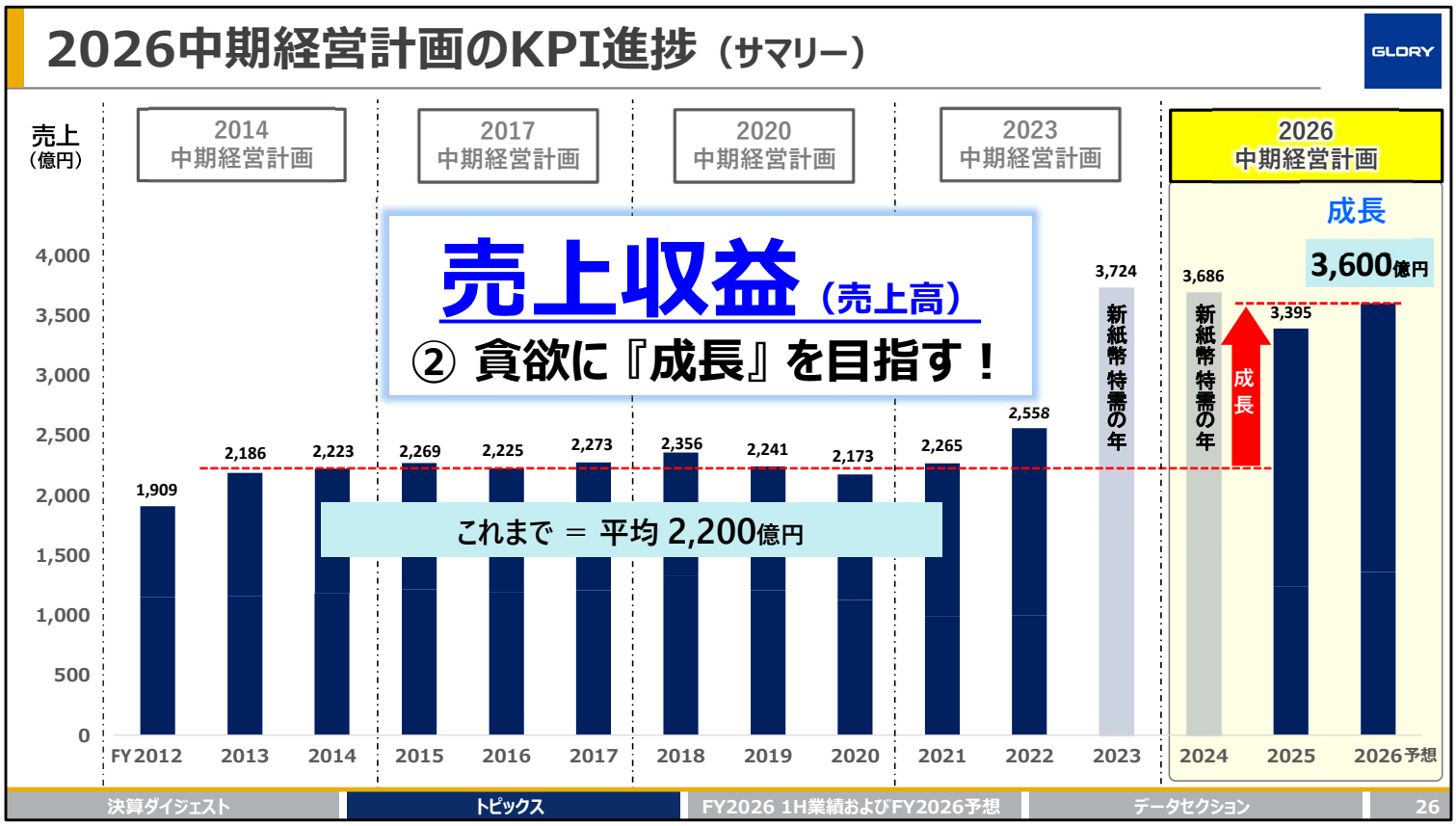
説明者：代表取締役社長　原田 明浩



「2026中期経営計画KPI進捗」

①「稼ぐ力」の復活　営業利益

稼ぐ力を復活しようということで営業利益の回復に努めてきた
グラフは過去5回の中期経営計画の営業利益の推移
これまでの平均は、大体200億円程度
一時期コロナ感染症や半導体不足の影響により利益が減少したが、その後、新紙幣発行に関する需要の寄与により利益が増加し、今期は300億円を超えるレベルに到達
安定的に利益が出る体制になる



「2026中期経営計画KPI進捗」

②貪欲に「成長」を目指す　売上収益

貪欲に成長を目指すということで売上収益を拡大
新紙幣発行関連の需要前の平均が大体2,200億円。
その後、海外が非常に伸び約1.5倍の3,600億円程度が現在の実力値
過去の中期と比べると大きく成長

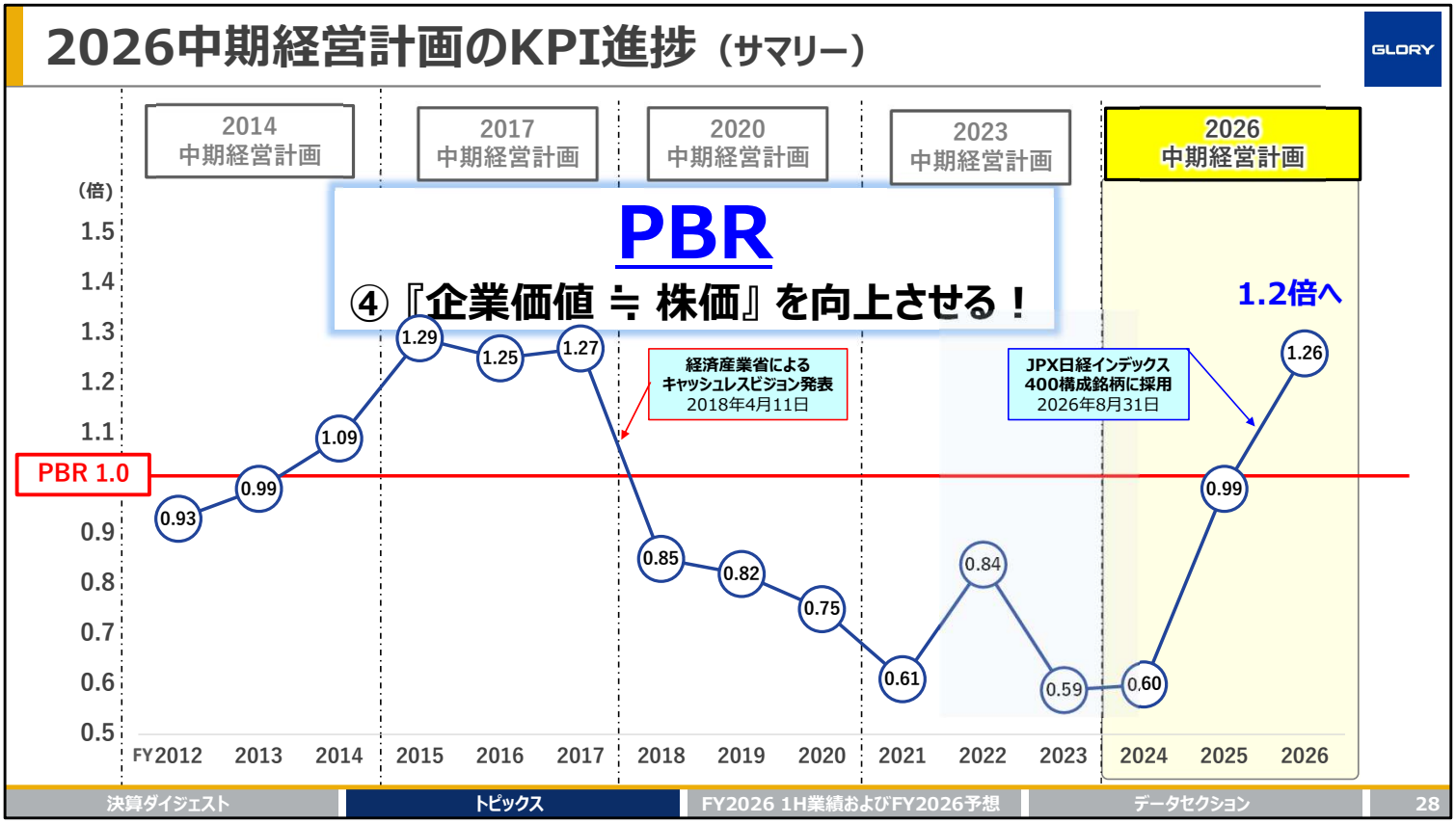


「2026中期経営計画KPI進捗」

③「企業価値≒株価」を向上させる　株価

企業価値を上げるということで株価の向上にも取り組む

その結果、株価は5,000円前後まで上がってきた

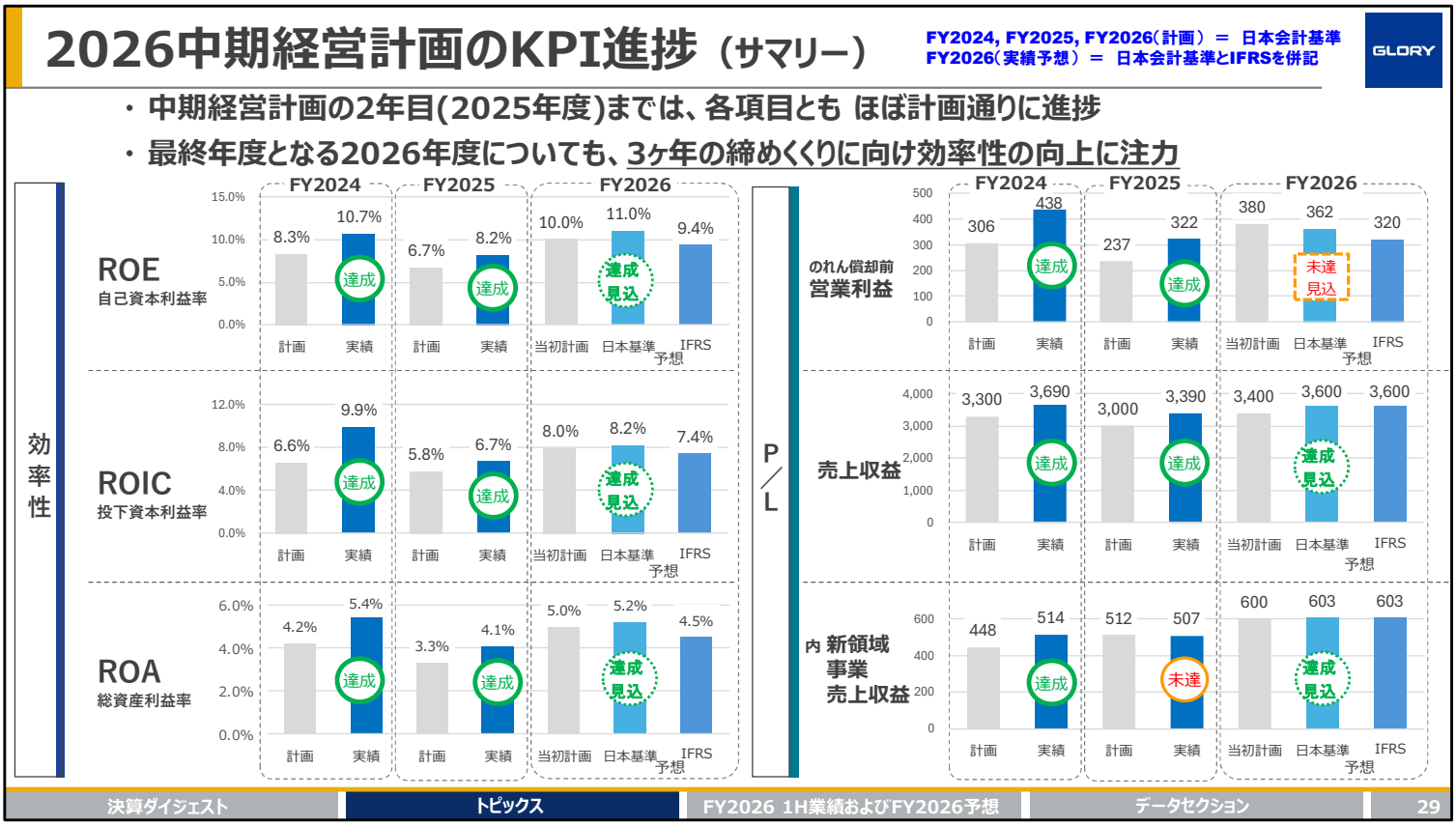


「2026中期経営計画KPI進捗」

④「企業価値≒株価」を向上させる　PBR

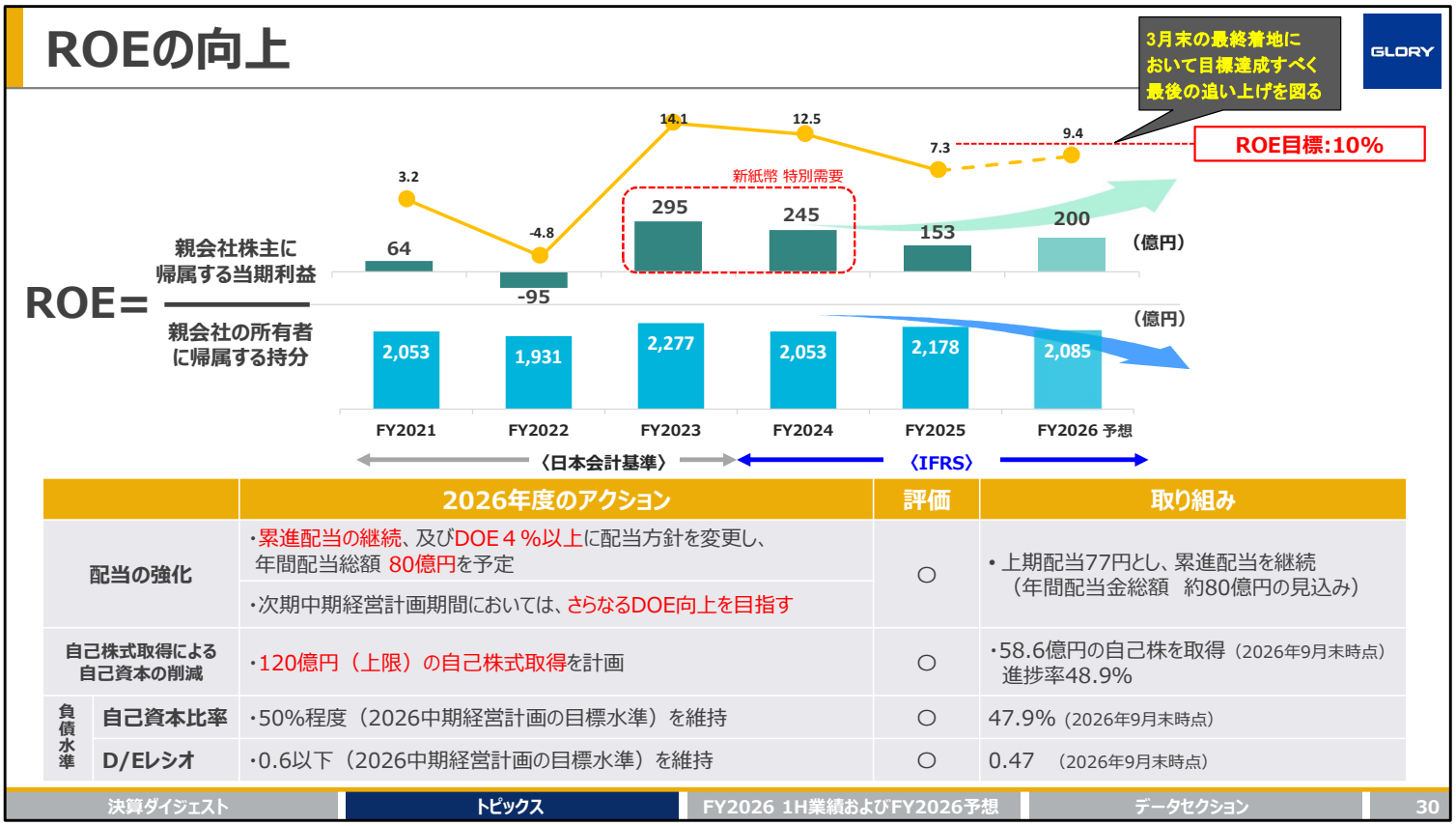
同じく企業価値向上で、PBR最低1倍以上を目指してきた
青色の吹き出しにあるように、2018年4月に経産省のキャッシュレス・ビジョンを公開後、株価が下落

2026中計に入り株価もPBRも回復、直近では1.2倍を超えてきた
また8月には、JPX日経インデックス400構成銘柄にも採用



「2026中期経営計画KPI進捗」

説明省略



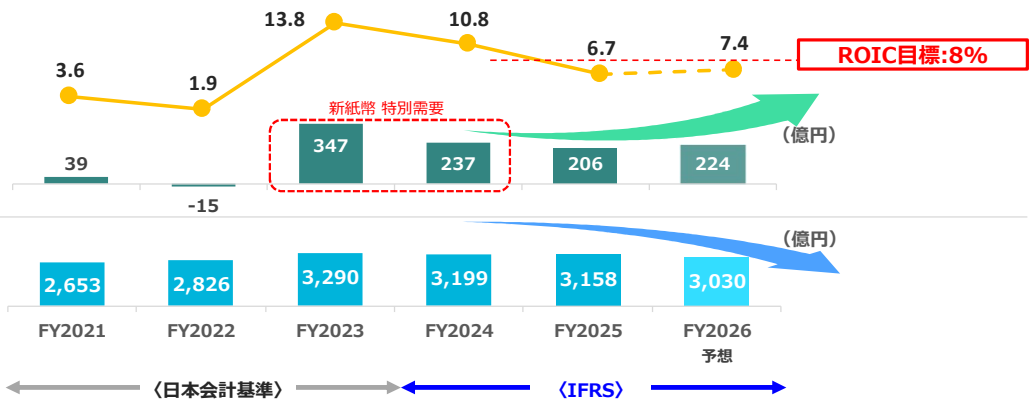
		2026年度のアクション	評価	取り組み
配当の強化		・累進配当の継続、及びDOE４％以上に配当方針を変更し、年間配当総額 80億円を予定 ・次期中期経営計画期間においては、さらなるDOE向上を目指す	○	・上期配当77円とし、累進配当を継続（年間配当金総額 約80億円の見込み）
自己株式取得による自己資本の削減		・120億円（上限）の自己株式取得を計画	○	・58.6億円の自己株を取得（2026年9月末時点）進捗率48.9%
負債水準	自己資本比率	・50%程度（2026中期経営計画の目標水準）を維持	○	47.9%（2026年9月末時点）
	D/Eレシオ	・0.6以下（2026中期経営計画の目標水準）を維持	○	0.47 （2026年9月末時点）

「2026中期経営計画KPI進捗」

説明省略

ROICの向上

$$ROIC = \frac{\text{税引後営業利益}}{\text{有利子負債} + \text{資本合計}}$$

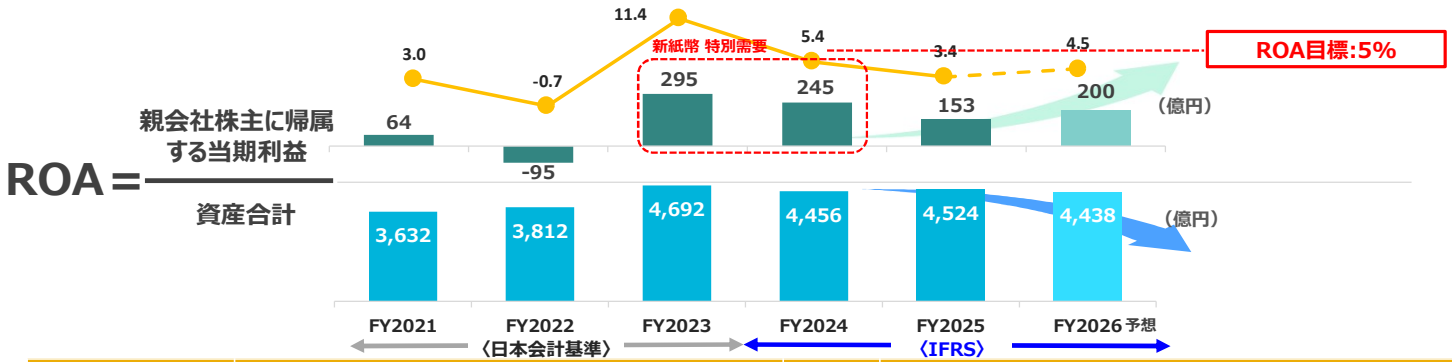


資金効率の改善	2026年度のアクション	評価	取り組み
売掛債権	適正な債権回収を実施	○	売掛金の回収が進み、売掛債権は、前期末比で約56億円減少。 （2026年9月末時点）
棚卸資産	適正在庫を維持	○	製品、部品は減少したが、仕掛品の増加により前期末比16億円増加。 （2026年9月末時点）

「2026中期経営計画KPI進捗」

説明省略

ROAの向上

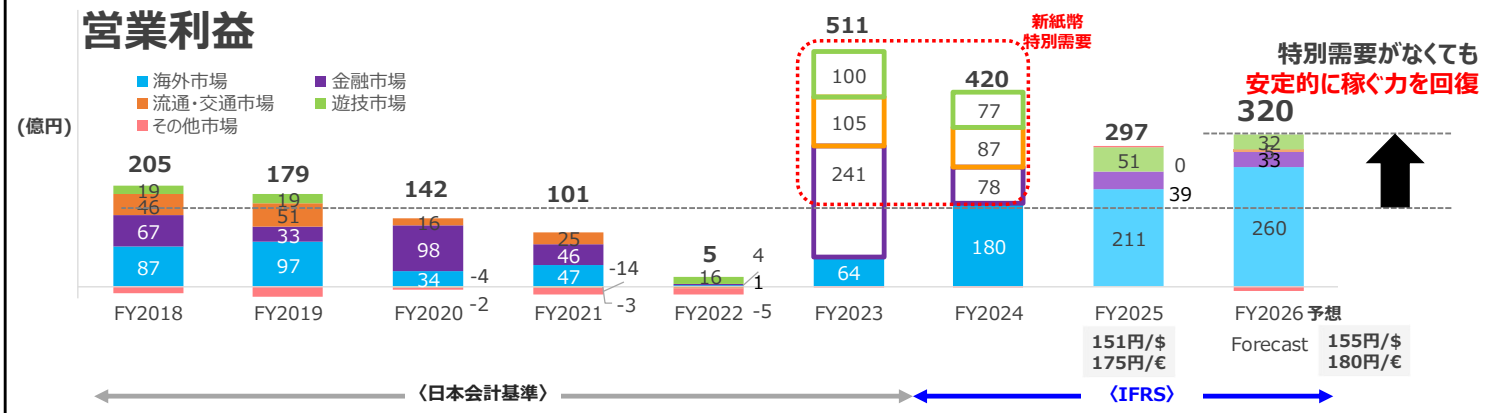


総資産の適正化 B/Sのスリム化	2026年度のアクション	評価	取り組み
現預金	コミットメントラインの活用等により効率化を推進 • 目的：機動的かつ安定的な資金調達手段の確保による、財政基盤のより一層の強化 • 借入限度：150億円　・契約締結日：2026年3月31日	△	• 現預金は、前期末比52億円増の553億円（2026年9月末時点）（月商の1.8ヶ月分） • 手元資金が潤沢でコミットメントラインの実行なし
売掛債権	適切な債権管理を推進	○	売掛金の回収が進み売掛債権は前期末比で約56億円減少（2026年9月末時点）
資産合計	棚卸資産や売掛債権の削減を推進	○	総資産は、前期末比わずか16億円増の4,541億円（2026年9月末時点）

「2026中期経営計画KPI進捗」

説明省略

営業利益（稼ぐ力）の向上

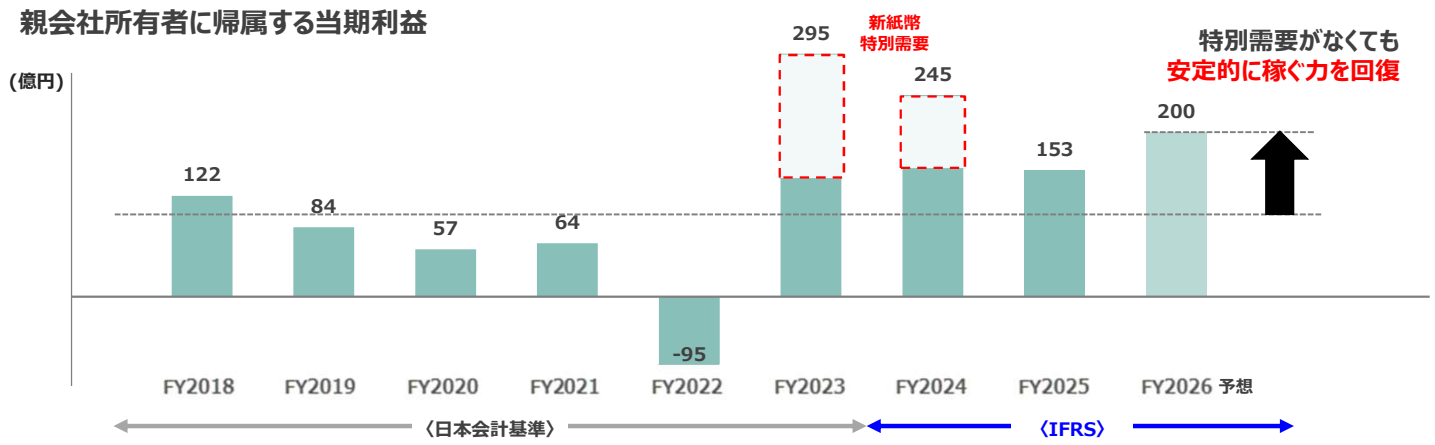


	2026年度のアクション	評価	取り組み
国内	主要製品の更新需要の復調によるプロダクトミックスの改善により、利益回復を目指す	△	• 部品価格高騰の影響により、利益縮小 • 生産への影響の最小化を目指す
海外	構造改革による効率化を推進し、利益率向上を目指す	○	3社一体となった顧客へのアプローチにより、収益力を強化
新領域	事業成長を軸に利益回復を目指す	×	Flooid：成長加速を見込んだ投資を継続

「2026中期経営計画KPI進捗」

説明省略

当期利益（純利益）の向上

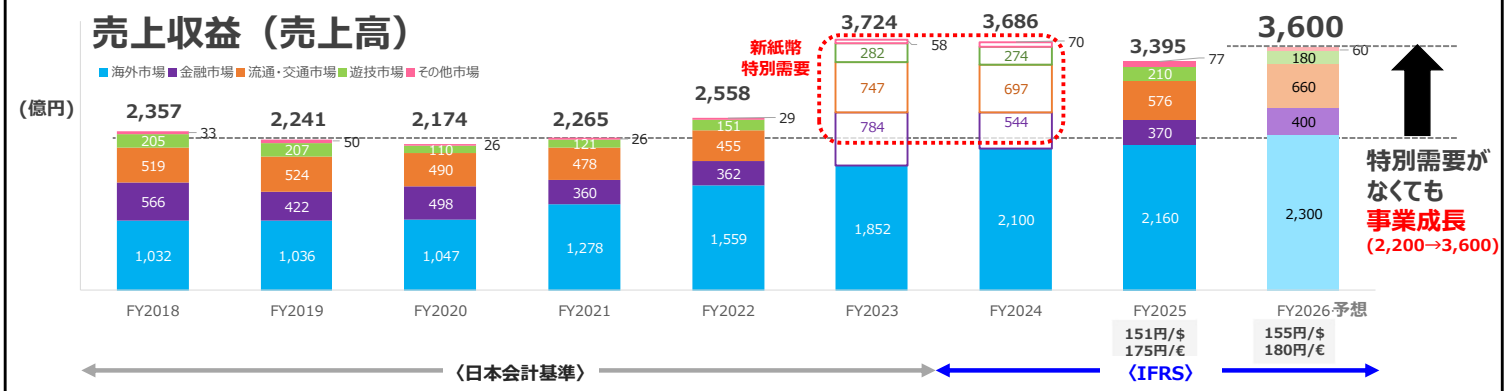


2026年度のアクション	評価	取り組み
グローバルベースの為替リスクヘッジの範囲を拡大し、対象となる通貨ペアを増やすことでより効果的なヘッジを実行	○	取引量が最も多いドルと他通貨のペアでリスクヘッジを拡大。為替変動の影響が大きい通貨を特定し、これまでの対円、ユーロだけでなく、10通貨程度の為替予約を毎月実行
適正な負債水準を維持	○	運転資金として短期借入金が増加したが、約定弁済により長期借入金は減少し、金利上昇局面でも支払利息は想定通りに抑制

「2026中期経営計画KPI進捗」

説明省略

事業成長（売上収益成長）



	2026年度のアクション	評価	取り組み
国内	• 金融：プラス金利を背景とした旺盛な設備投資を確実に獲得	○	人手不足に対応したセルフ型製品の販売拡大や、業種拡大に注力
	• 流通交通：人手不足や人件費高騰を背景としたセルフ化需要に対応し、レジつり銭機などの販売拡大を見込む	○	
海外	• 金融：業務効率化に対応したセルフ型ロビー機の拡販を見込む	○	米国の金融機関での需要拡大を見込む
	• リテール：セルフ化・厳正化ニーズに対応した現金管理ソリューションの拡販を進める	○	北米での成功事例の中南米への拡大に注力
新領域	• Flooid：営業体制の強化により、新規顧客開拓を加速	×	新規案件獲得は遅延
	• Acrelec：主要顧客へのセルフサービスキオスクの販売を進める	○	ソリューションの多角化により収益底上げ

「2026中期経営計画KPI進捗」

説明省略

2 2027年3月期 中間期実績 および 2027年3月期 予想の概要

取締役 IR担当　藤田 知子

「2027年3月期 中間期実績及び2027年3月期予想の概要」

説明者：取締役 IR担当役員　藤田　知子

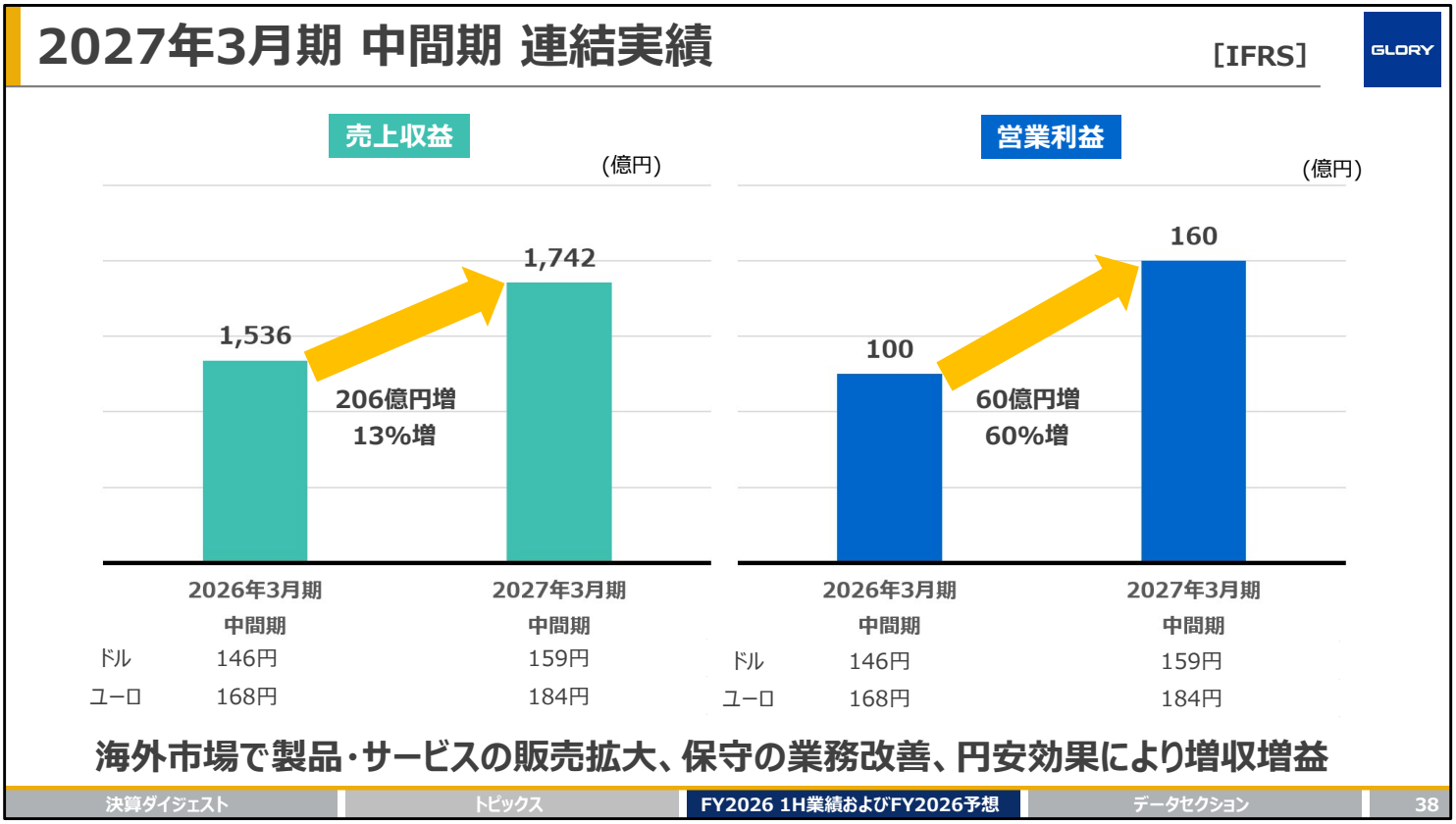
直近の市場動向

金 融		• 金利上昇を背景に金融機関の業績は好調であり、設備投資意欲が高い。 • 人手不足から業務効率化・厳正化のニーズが強く、現金処理機・非現金製品ともに、需要が旺盛である。
流通・交通		• フロント向けについては、セルフ化需要が強く、レジつり銭機への需要は高い。 • バックオフィス向けについては、現金管理の効率化ニーズが高まり入出金機の需要が拡大している。
遊 技		• スマート遊技機の導入スピードが鈍化しつつあることから、関連機器への需要が減速している。
海 外	米州	• 中米地域を中心に、現金管理の厳正化・効率化ニーズが高まり、関連需要が拡大している。
	欧州	• 人手不足や店舗運営効率化を背景に、リテール向け需要が堅調に推移している。
	アジア	• 店舗運営効率化や現金管理高度化に向けたリテール需要が拡大している。

「直近の市場動向」

傾向としては、前回と大きく違いはない

国内外とも、人手不足、人件費高騰に対応するための自動化ニーズは引き続き強い状況



「2027年3月期 中間期 連結実績」

<u>左側グラフ）売上収益</u>

・売上収益　1,742億円（前年同期比+206億円）

26年3月期 中間期には国内の新紙幣関連の特需の剥落があったが、

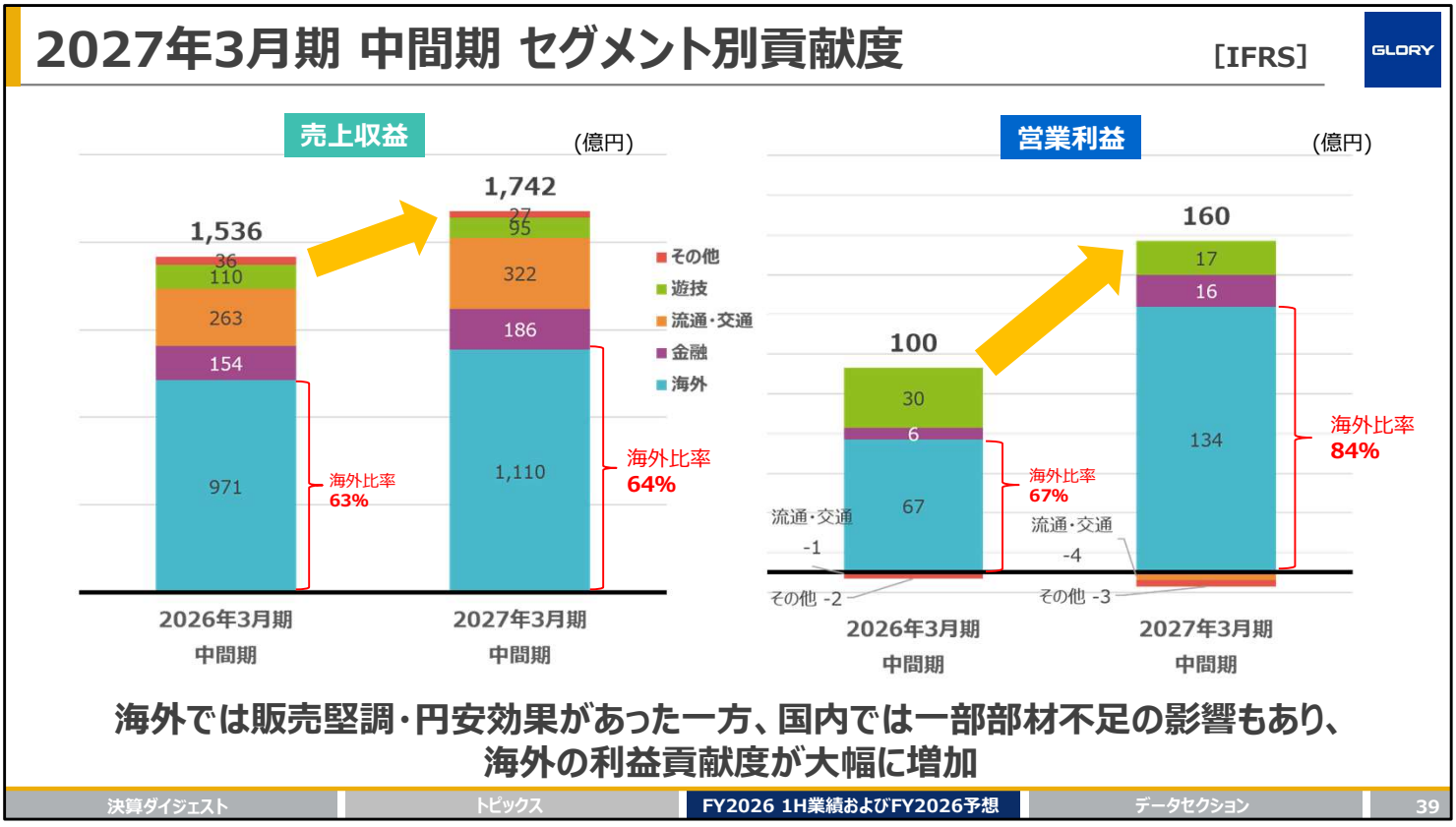
27年3月期 中間期には回復傾向

海外でも全般的に需要が堅調。円安効果もあり売上収益は増加

<u>右側グラフ）営業利益</u>

・営業利益　160億円（前年同期比+60億円）

売上の増加や、米国における保守事業のコスト低減による



「セグメント別貢献度」

<u>左側グラフ）売上収益</u>

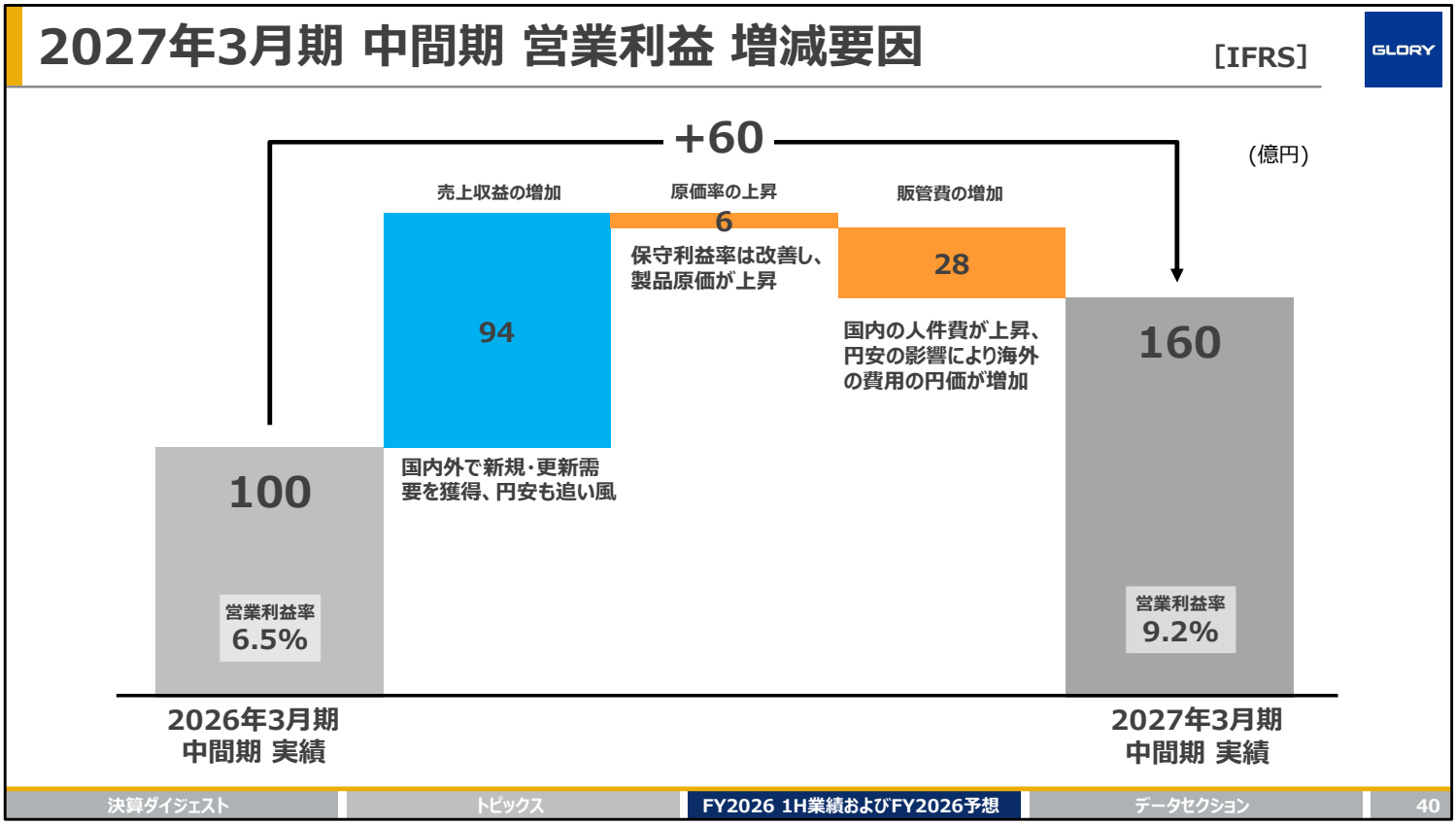
海外は販売堅調に加え、円安効果

国内は部材不足の影響などが発生

<u>右側グラフ）営業利益</u>

海外の貢献度がさらに拡大

中間期では84%の構成比率



「営業利益　増減要因」

売上収益の増加（+94億円）

国内外で新規および更新需要の増加。また海外では円安も追い風になり、営業利益は94億円増加

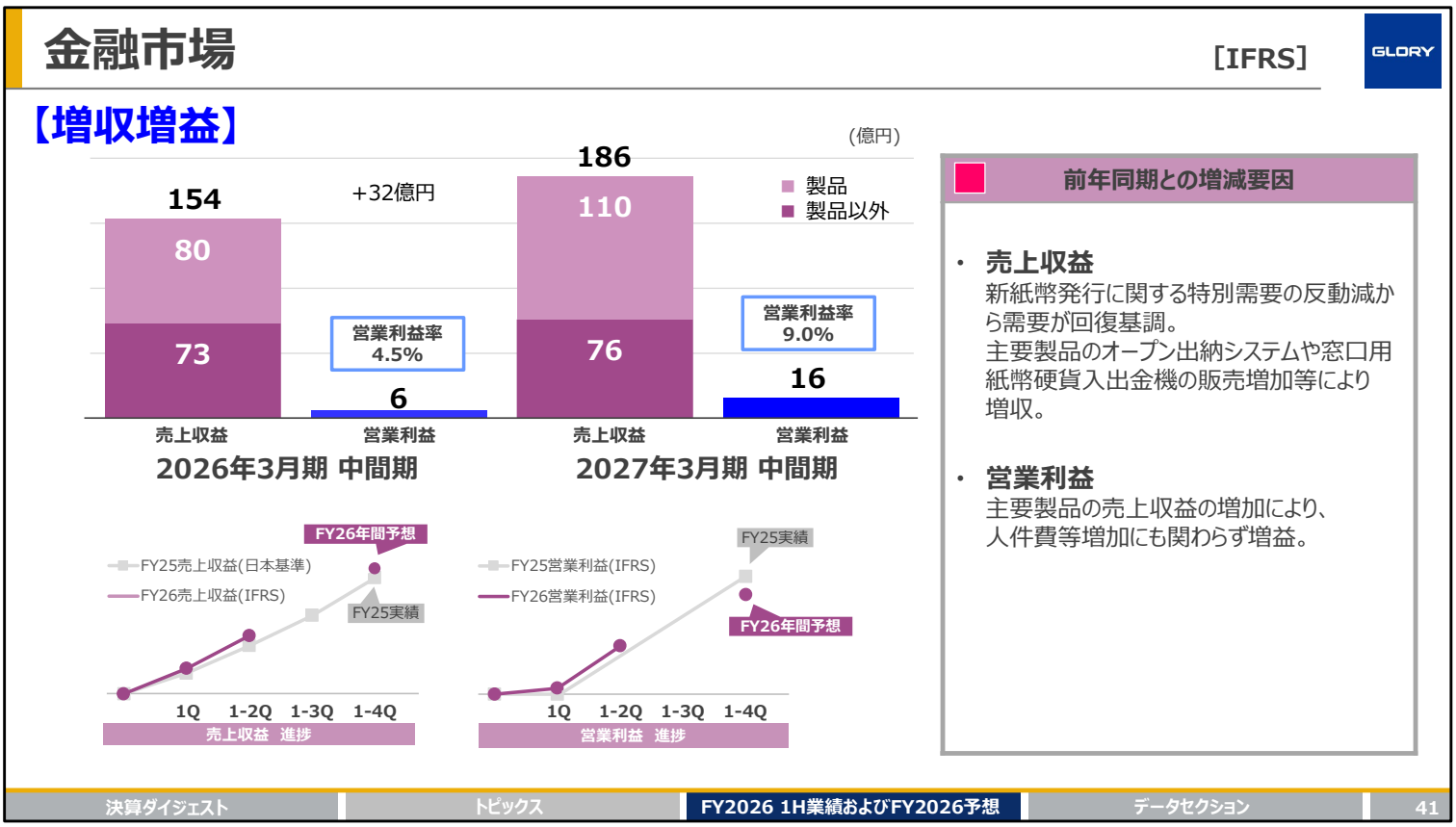
原価率の影響（▲6億円）

米国の保守利益率は改善したが、部材高騰などの要因から製品原価率が上昇

営業利益は6億円減少

販管費の増加（▲28億円）

国内の人件費の増加に加え、海外の販管費が円安の影響を受け営業利益が28億円減少



「金融市場」

・売上収益　186億円（前年同期比+32億円）

・営業利益　　16億円（前年同期比+10億円）

26年3月期は新紙幣発行に関する特需の反動があったが、27年3月期に入り回復基調

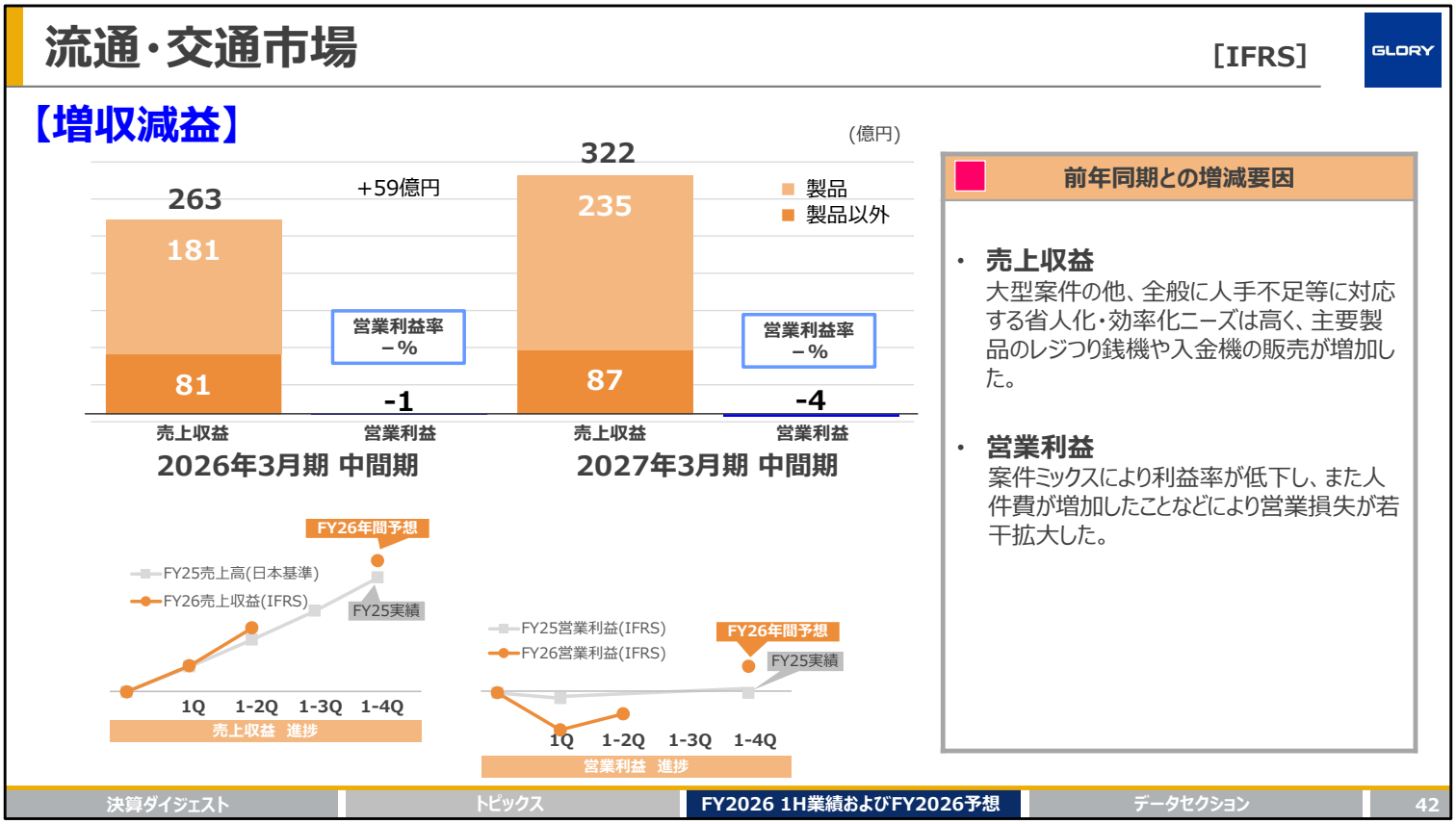
主要製品のオープン出納システムや窓口用紙幣硬貨入出金機の販売が増加

売上収益の増加に伴い、人件費の増加等はあったが営業利益は10億円ほど増加

（画面左下のグラフ）

今期の年間予想に向けて、各四半期の実績がどのように伸びていくかを示したグラフ

色付きの線はFY2026実績。グレーはFY2025実績。IFRS適用により第2四半期実績と通期予想の数値のみ開示。前期は遡及適用。売上収益は会計基準により大きな影響がないためFY2025のみ日本会計基準値をグラフ化



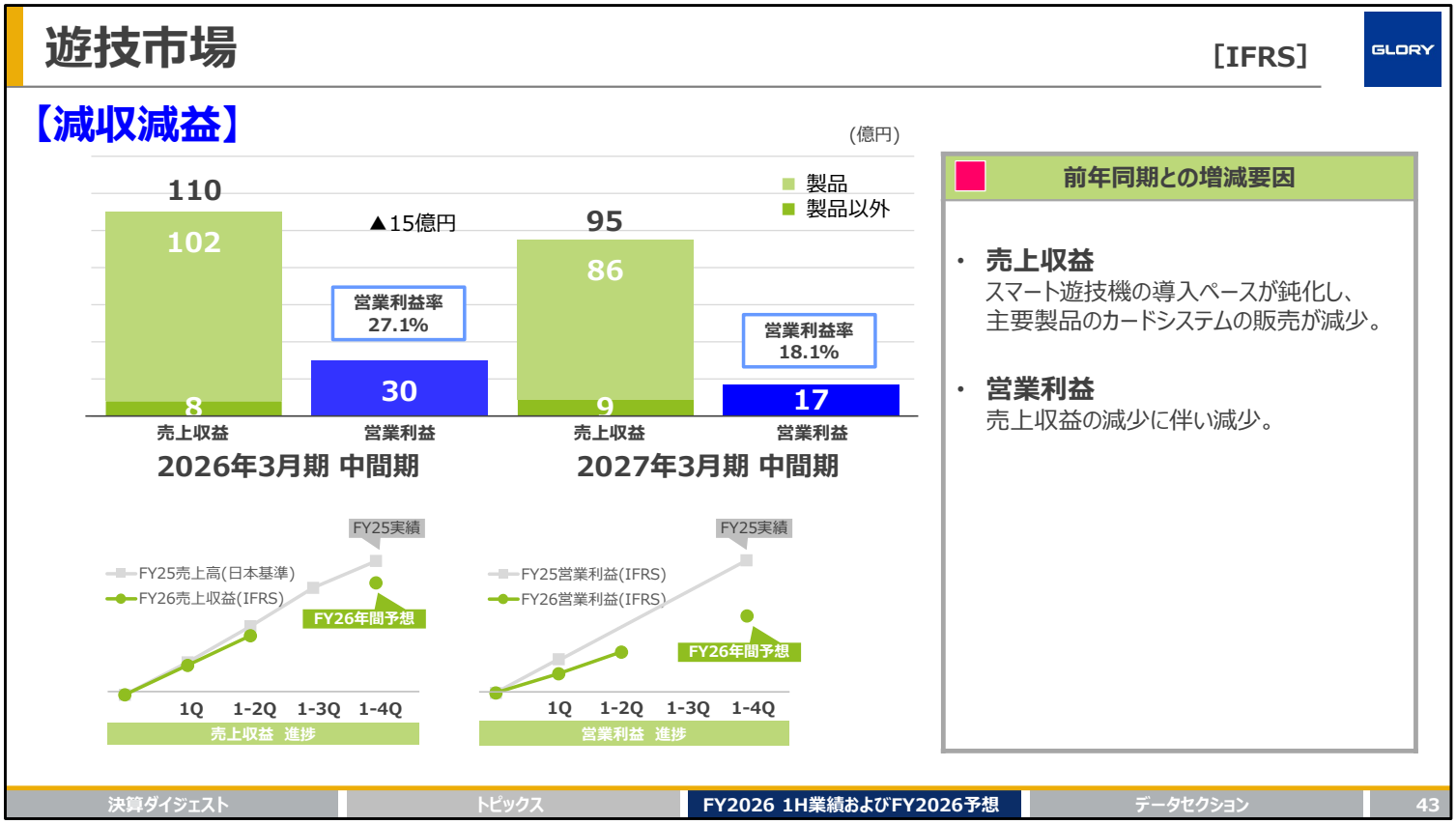
「流通・交通市場」

・売上収益　322億円（前年同期比+59億円）

・営業利益　　-4億円（前年同期比　-3億円）

売上収益は、大型案件が始まったほか、全般に人手不足に対応する省人化や効率化のニーズは高く、主要製品のレジつり銭機や入金機の販売が増加。

営業利益は、案件ミックスによる利益率の低下、および人件費等が増加したことから、営業損失が拡大



「遊技市場」

・売上収益　95億円（前年同期比-15億円）

・営業利益　17億円（前年同期比-13億円）

売上収益は、第1四半期と同様の傾向が継続。

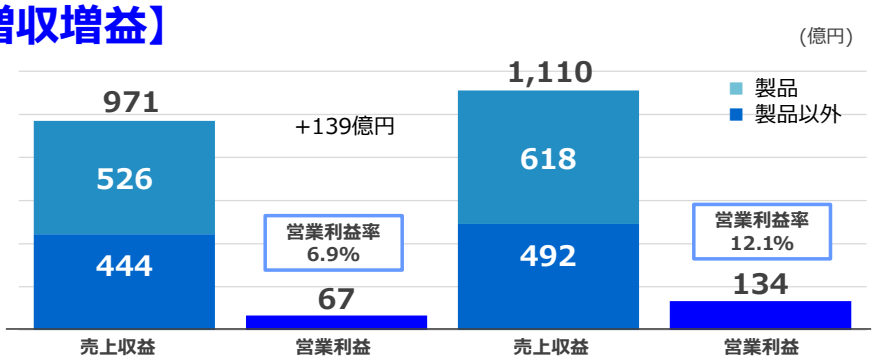
スマート遊技機の導入ペースが前年同期よりも鈍化。主要製品のカードシステムの販売が減少

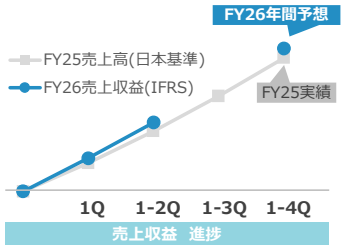
営業利益は、売上収益減少に伴い営業利益も減少

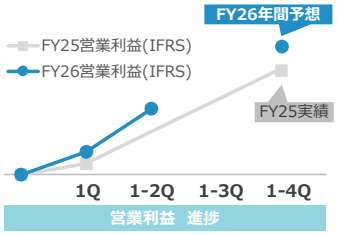
海外市場

［IFRS］

【増収増益】







前年同期との増減要因

- **売上収益**
  １３９億円の増収。うち円安による増加は概算７６億円。
  全般的に需要は旺盛で売上収益は堅調。特に、GGS欧州とアクレレックが前年同期比で増加。

- **営業利益**
  ６７億円の増益。うち円安による増加は、概算１９億円程度。
  売上収益の増加、米国の保守事業の回復と安定、アクレレックの回復等が貢献。

「海外市場」

・売上収益　1,110億円（前年同期比+139億円）

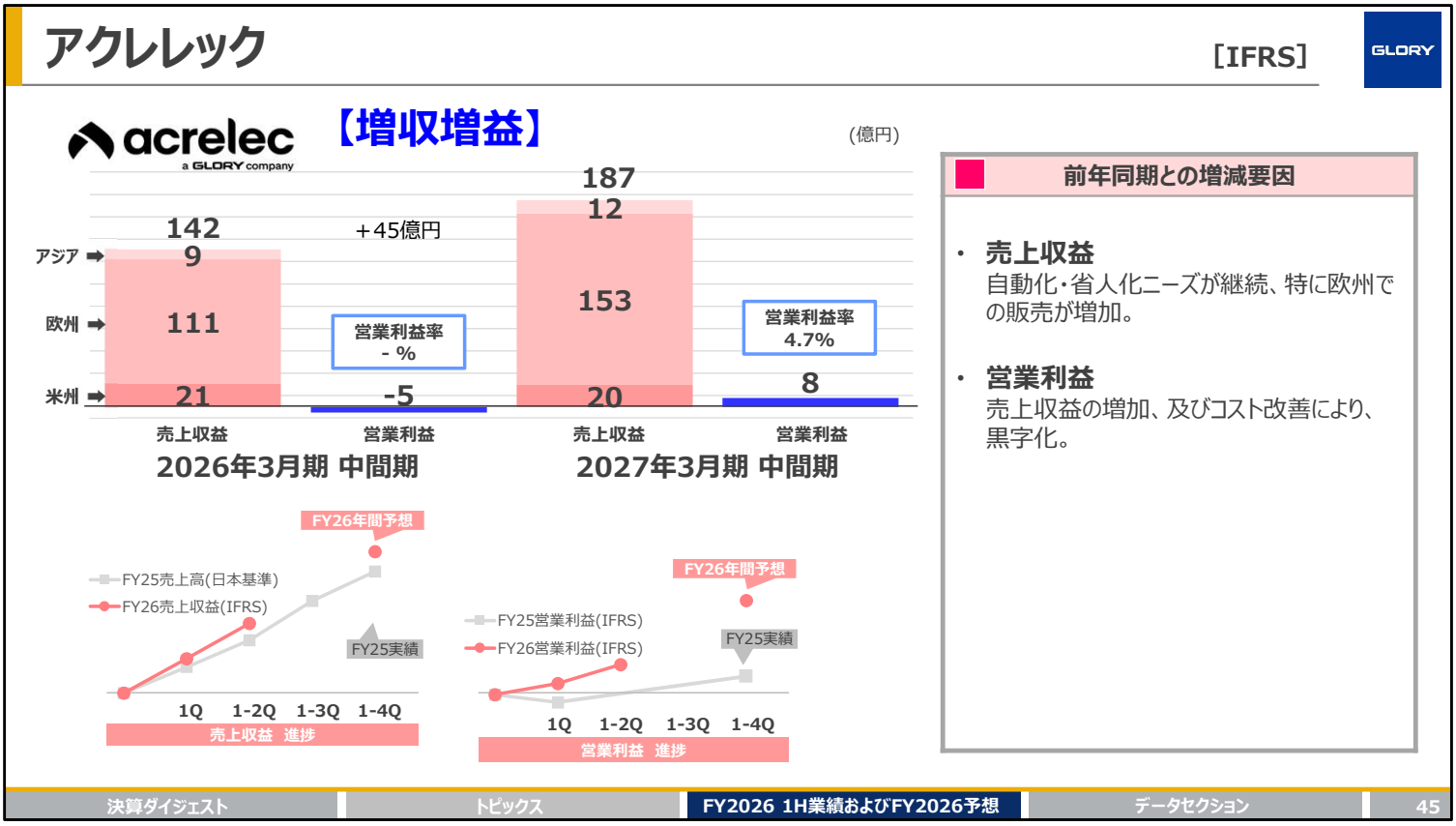
・営業利益　　134億円（前年同期比　+67億円）

全般的に市場の需要は旺盛で売上収益が増加（円安影響+76億円）

営業利益は、売上収益の伸びの効果に加え、米国における保守事業の改善が寄与

Acrelecの業績回復等による利益貢献

（円安影響+19億円）



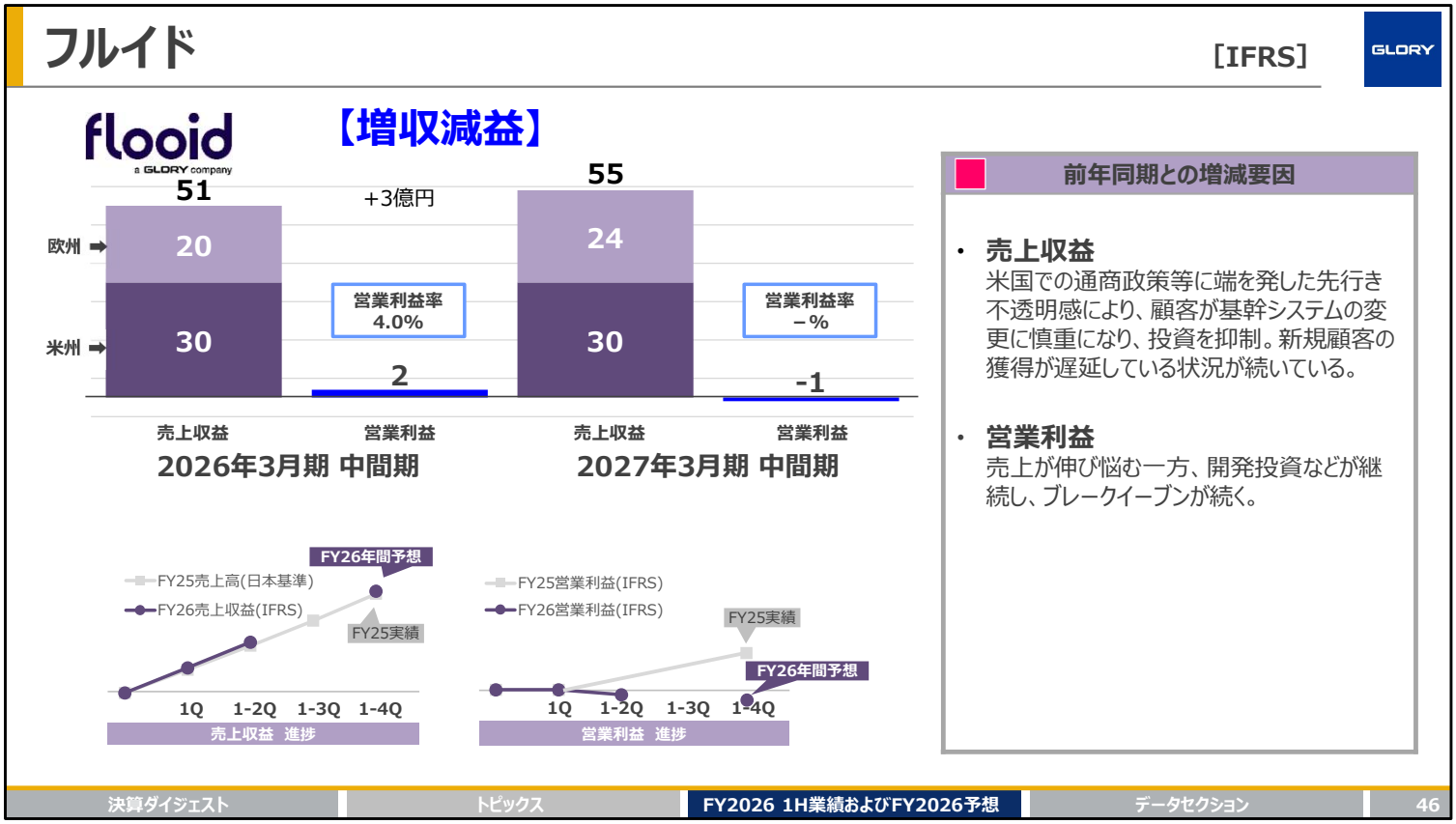
「海外市場　アクレレック」

・売上収益　187億円（前年同期比+45億円）

・営業利益　　8億円（前年同期比+13億円）

市場の自動化・省人化のニーズは継続。特に欧州での販売が増加

これに伴い営業利益は黒字化



「海外市場　フルイド」

・売上収益　55億円（前年同期比+3億円）

・営業利益　-1億円（前年同期比-3億円）

トレンドは、第1四半期から変化はなく、引き続き、新規顧客の獲得が遅延

昨年度から続く米国の情勢の不透明さなどから、お客様が投資判断を先送りしたことにより、新規顧客の獲得が伸び悩む状況が続く

営業損益は開発投資などの継続により、ほぼブレークイーブンの水準

海外 地域別売上収益

［IFRS］

億円	中間期		前期比		米ドルベース増減率
	2026年3月期	2027年3月期	増減額	増減率	
米州	453	458	+5	+1.1%	-7.3%
内 GGS	400	407	+6	+1.6%	-6.9%
内 Acrelec	21	20	-1	-5.1%	-13.0%
内 Flooid	30	30	0	-1.1%	-9.4%
欧州	444	558	+113	+25.6%	+15.1%
内 GGS	220	272	+53	+24.2%	+13.8%
内 Sitrade	91	105	+14	+15.3%	+5.5%
内 Acrelec	111	153	+42	+38.1%	+26.6%
内 Flooid	20	24	+3	+18.8%	+8.9%
アジア	73	93	+20	+28.2%	+17.4%
内 GGS	62	78	+16	+25.8%	+15.5%
内 Acrelec	9	12	+3	+43.4%	+31.4%
合計	971	1,110	+139	+14.4%	+4.8%
内 GGS	684	760	+75	+11.8%	+1.9%
内 Sitrade	91	105	+14	+15.3%	+5.1%
内 Acrelec	142	187	+45	+31.8%	+20.8%
内 Flooid	51	55	+3	+7.0%	-2.0%

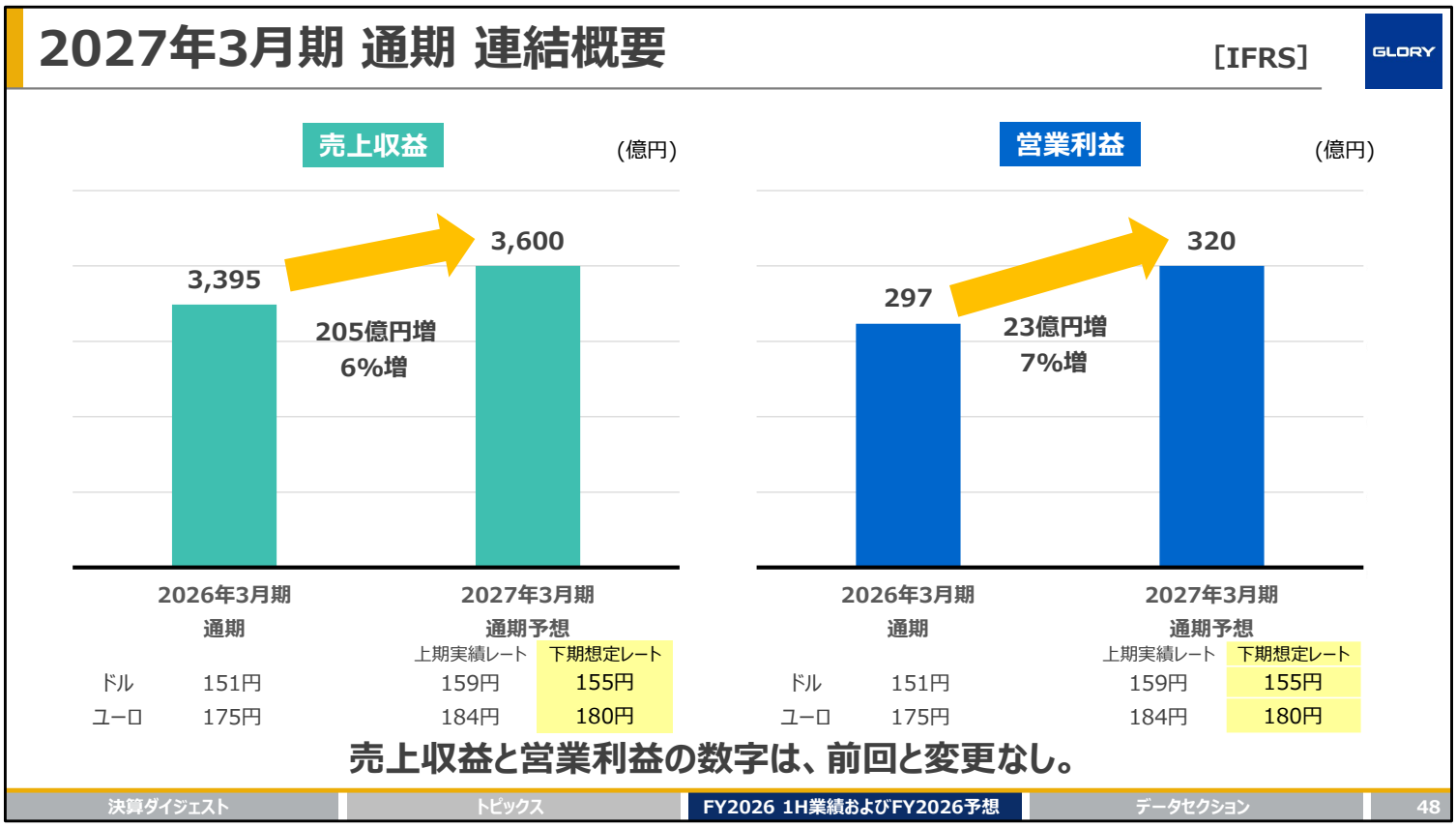
為替レート				
	ドル	146 円	159 円	13 円の円安
	ユーロ	168 円	184 円	16 円の円安

＊ 大口案件の反動

「海外市場　実績」

海外セグメントの中の地域別および法人別の売上収益

米州GGSが前年に比べてドルベースでマイナスの要因は、前年のリテール市場での大口案件の反動減



「2027年3月期 通期 連結概要」

<u>左側グラフ）売上収益</u>

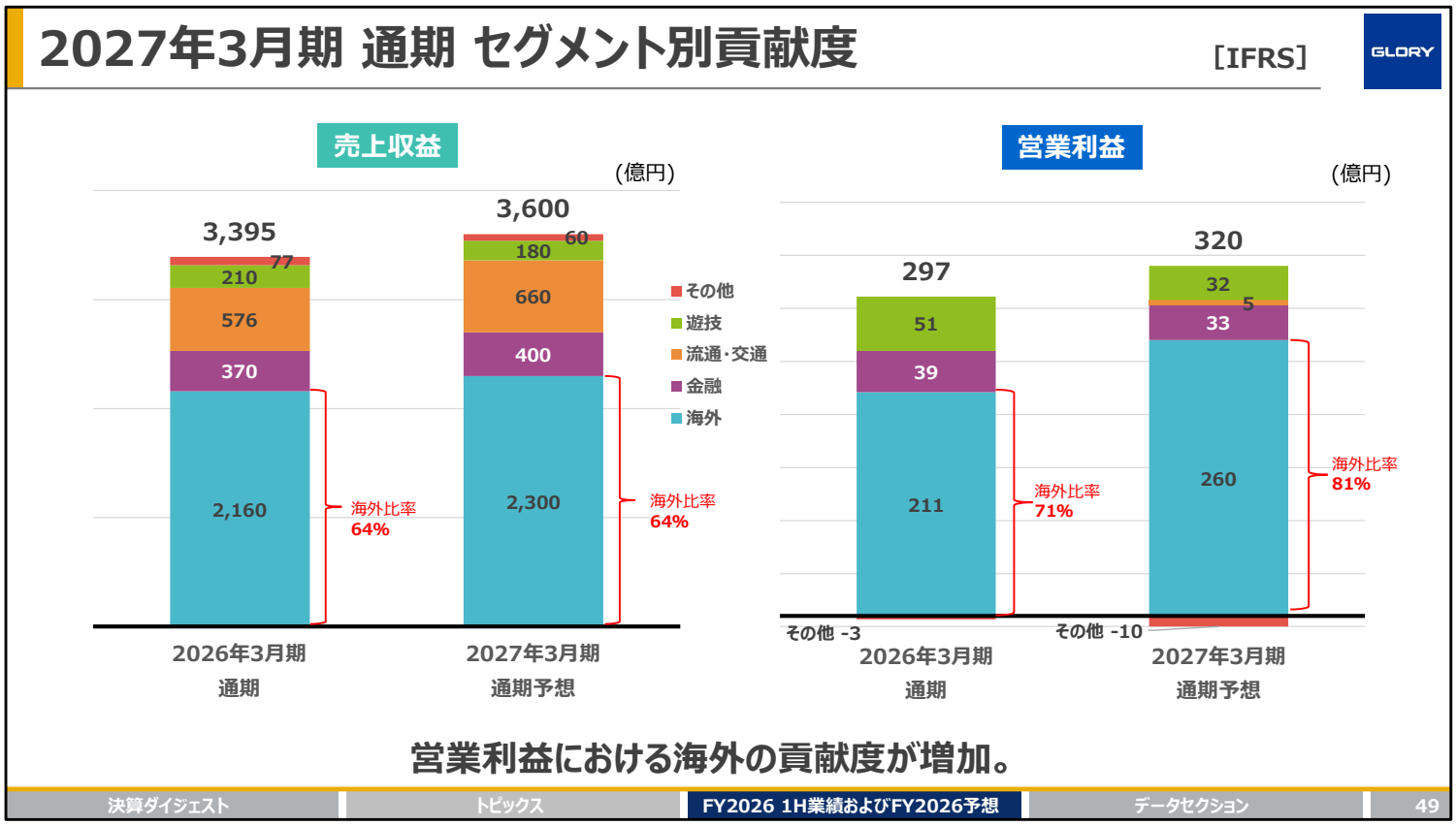
・売上収益　3,600億円（前期比+205億円）

期初予想から変更なし

<u>右側グラフ）営業利益</u>

・営業利益　320億円（前期比+23億円）

期初予想から変更なし



「2027年3月期 通期 連結概要」

セグメント別の予想値を以下の通り修正

<u>左側グラフ）売上収益</u>

・売上収益　3,600億円

海外市場　　修正前2,240億円→修正後2,300億円（+60億円）
金融市場　　修正前430億円→修正後400億円（-30億円）
流通・交通市場　修正前680億円→修正後660億円（-20億円）
遊技市場　　修正前190億円→修正後180億円（-10億円）
その他　　修正前60億円→修正後60億円（±0億円）

<u>右側グラフ）営業利益</u>

・営業利益　320億円

海外市場　　修正前240億円→修正後260億円（+20億円）
金融市場　　修正前45億円→修正後33億円（-12億円）
流通・交通市場　修正前15億円→修正後5億円（-10億円）
遊技市場　　修正前29億円→修正後32億円（+3億円）
その他　　修正前-9億円→修正後-10億円（-1億円）

私からの説明は以上となります。

「グローリー IR DAY 2026」のご案内



3 データセクション

3期分 P&L

［IFRS］

億円	2025年３月期		2026年３月期				2027年３月期			
	実績	売上収益比率	実績	売上収益比率	前期比 増減額	前期比 増減率	予想	売上収益比率	前期比 増減額	前期比 増減率
売上収益	3,686	100.0%	3,395	100.0%	-291	-7.9%	3,600	100.0%	+205	+6.0%
営業利益	420	11.4%	297	8.8%	-123	-29.3%	320	8.9%	+23	+7.6%
親会社の所有者に帰属する当期利益	245	6.6%	153	4.5%	-92	-37.6%	200	5.6%	+47	+30.0%

為替レート	米ドル	153 円	151 円	（期初予想）150円 ➡ 155 円
	ユーロ	164 円	175 円	（期初予想）170円 ➡ 180 円

3期分 セグメント別

［IFRS］

億円		2025年3月期 実績	2025年3月期 売上構成比率 / 営業利益率	2026年3月期 実績	2026年3月期 売上構成比率 / 営業利益率	前期比 増減額	前期比 増減率	2027年3月期 予想 2026/5/13時点	2027年3月期 予想 2026/11/10時点	2027年3月期 売上構成比率 / 営業利益率	2027年3月期 前期比 増減額	2027年3月期 前期比 増減率
海外市場	売上収益	2,100	57.0%	2,160	63.6%	+60	+2.9%	2,240 ➡	2,300	63.9%	+140	+6.4%
	営業利益	180	8.6%	211	9.8%	+31	+17.2%	240 ➡	260	11.3%	+49	+23.2%
金融市場	売上収益	544	14.8%	370	10.9%	-174	-32.0%	430 ➡	400	11.1%	+30	+7.9%
	営業利益	78	14.5%	39	10.5%	-39	-50.0%	45 ➡	33	8.3%	-6	-15.6%
流通・交通市場	売上収益	697	18.9%	576	17.0%	-121	-17.4%	680 ➡	660	18.3%	+84	+14.5%
	営業利益	87	12.5%	0	-	-87	-	15 ➡	5	0.8%	+5	-
遊技市場	売上収益	277	7.5%	210	6.2%	-67	-24.2%	190 ➡	180	5.0%	-30	-14.6%
	営業利益	77	27.9%	51	24.3%	-26	-33.8%	29 ➡	32	17.8%	-19	-37.5%
その他	売上収益	70	1.9%	77	2.3%	+7	+10.0%	60 ➡	60	1.7%	-17	-22.1%
	営業利益	-3	-	-3	-	0	-	-9 ➡	-10	-	-6	-
合 計	売上収益	3,686	100.0%	3,395	100.0%	-291	-7.9%	3,600 ➡	3,600	100.0%	+205	+6.0%
	営業利益	420	11.4%	297	8.8%	-123	-29.3%	320 ➡	320	8.9%	+23	+7.6%

為替レート							
	ドル	153 円	151 円	2 円の円高	150円 ➡	155 円	4 円の円安
	ユーロ	164 円	175 円	11 円の円安	170円 ➡	180 円	5 円の円安

海外地域別売上収益

［IFRS］

億円	通期									
	2025年3月期	2026年3月期	前期比 増減額	前期比 増減率	米ドルベース 増減率	2027年3月期予想 2026/5/13時点	2027年3月期予想 2026/11/10時点	前期比 増減額	前期比 増減率	米ドルベース 増減率
米州	1,008	989	-19	-1.9%	-0.7%	1,030 ➡	950	-39	-3.9%	-6.6%
内 GGS	875	889	+14	+1.6%	+2.8%	885 ➡	845	-44	-4.9%	-7.5%
内 Acrelec	63	51	-12	-19.0%	-17.9%	70 ➡	55	+4	+7.8%	+4.3%
内 Flooid	70	49	-21	-30.0%	-28.4%	75 ➡	50	+1	+2.0%	-2.7%
欧州	900	1,000	+100	+11.1%	+12.5%	1,030 ➡	1,150	+150	+15.0%	+11.8%
内 GGS	453	487	+34	+7.5%	+8.8%	510 ➡	590	+103	+21.1%	+18.1%
内 Sitrade	166	200	+34	+20.5%	+22.2%	180 ➡	200	0	0.0%	-5.7%
内 Acrelec	231	256	+25	+10.8%	+12.1%	270 ➡	300	+44	+17.2%	+13.8%
内 Flooid	50	57	+7	+14.0%	+15.6%	70 ➡	60	+3	+5.3%	+1.0%
アジア	191	170	-21	-11.0%	-10.0%	180 ➡	200	+30	+17.6%	+14.2%
内 GGS	154	150	-4	-2.6%	-1.3%	155 ➡	175	+25	+16.7%	+13.2%
内 Acrelec	37	19	-18	-48.6%	-45.9%	25 ➡	25	+6	+31.6%	+21.8%
合 計	2,100	2,160	+60	+2.9%	+4.1%	2,240 ➡	2,300	+140	+6.5%	+3.5%
内 GGS	1,481	1,526	+45	+3.0%	+4.2%	1,550 ➡	1,610	+84	+5.5%	+2.7%
内 Sitrade	166	200	+34	+20.5%	+22.2%	180 ➡	200	0	0.0%	-5.7%
内 Acrelec	332	327	-5	-1.5%	-0.1%	365 ➡	380	+53	+16.2%	+12.8%
内 Flooid	121	107	-14	-11.6%	-10.1%	145 ➡	110	+3	+2.8%	-0.7%

実績為替レート						計画為替レート
ドル	153 円	151 円	2 円の円高	150円 ➡	155 円	4 円の円安	ドル
ユーロ	164 円	175 円	11 円の円安	170円 ➡	180 円	5 円の円安	ユーロ